

国際ロータリー第274地区

1986—1987

## 地区協議会記録

日 時	昭和61年5月17日(土)～18日(日)
会 場	福江文化会館
ホストクラブ	福江ロータリークラブ
コホストクラブ	福江中央ロータリークラブ

1986—87年度

R I テ ー マ

ロータリーは希望をもたらす



ROTARY BRINGS HOPE

MAT.

M. A. T. カバラス

1986—87年度国際ロータリー会長



## 目 次

地区協議会プログラム	1頁	
歓迎のあいさつ	ホストクラブ会長 福嶋 良岡	3〃
あいさつ	ガバナー 井田 圓之	4〃
新年度の方針	ガバナーノミニー 野田 久雄	6〃
基調講演	ポリオプラスについて 規定期議会報告	
	パストガバナー 岩永 光治	12〃
パネル・ディスカッション第1部		23〃
〃	第2部	42〃
あいさつ	ガバナー 井田 圓之	56〃
閉会の言葉	ガバナーノミニー 野田 久雄	57〃

# 国際ロータリー第274地区1986～1987年度地区協議会プログラム

とき：昭和61年5月17日(土)・18日(日)

ところ：福江市文化会館

## 第一日

13:30～14:00 打合せ会

(次期分区代理・アドバイザー・リーダー・パネリスト・SAA・記録)

13:00～15:00 登録

15:00～15:30 開会・点鐘

国歌・ロータリーソング「奉仕の理想」

歓迎のことば ホストクラブ会長 福島良岡

あいさつ ガバナー 井田圓之

紹介 ガバナー 井田圓之

ガバナーノミニー

(86～87年度、87～88年度)

パストガバナー

分区代理・地区幹事・副幹事・地区会計長

ガバナーノミニー・(86～87年度)・パストガバナー  
(87～88年度)

15:30～16:00 新年度方針 ガバナーノミニー 野田久雄

16:00～16:10 新年度予算について 地区幹事 中村繁春

16:10～16:50 基調講演 ポリオプラスについて パストガバナー 岩永光治

(規定審議会報告を含む)

16:50～17:00 休憩

17:00～18:40 パネルディスカッション 第一部

(1) ロータリーの親睦と新会員対策

(2) 会員増強・クラブの取り組み方

(3) 地域に密着する奉仕への思想

(a) 社会奉仕の立場から

(b) 職業奉仕の立場から

19:00～懇親会

## 第二日

9:30 ~ 9:40 開会～点鐘

9:40 ~ 10:40 パネルディスカッション 第二部

(1) 高齢者への心づかいとロータリー

(2) 雑誌会報編集の取り組み方

10:40 ~ 10:50 あいさつ ガバナー 井田圓之

10:50 ~ 11:00 閉会のことば ガバナーノミニー 野田久雄

ロータリーソング「手に手つないで」

出席者 次期分区代理 次期社会奉仕委員長

次期会長 次期国際奉仕委員長

次期幹事 次期会員増強委員長

次期クラブ担当理事 次期雑誌会報編集責任者

次期職業奉仕委員長

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）



## 歓迎のことば

ホストクラブ会長 福 鳴 良 囂  
(福江RC)

皆さんこんにちは。今日は、はるばると海を越えて、この西果ての地、福江によこそお出で下さいました。心より歓迎申し上げます。

私共、島の者は、お客様をお迎えする時、大変天候を心配致しますが、お蔭様にて本日はさわやかな五月晴れに恵まれまして、島外より沢山の会員をお迎えして、こゝに地区協議会を開催することができますことを、大変嬉しく存ずる次第でございます。

又、井田ガバナーを始め、パネルディスカッションのリーダー及びアドバイザーをお願いしております北島パストガバナーと、逸見パストガバナー、基調講演をお引受け下さいました岩永パストガバナー及び御出席を給はりました田中丸ガバナーノミニーに厚くお礼を申し上げます。

さて、この地区協議会は、私共福江RCがホストクラブとして準備を進めて参りましたが、何しろ離島で始めての事でございまして、不馴れの点ばかりであります、もう既に不手際があり皆様に御迷惑をお掛けしております。これからも不行届きの点が多々あろうかと存じますが、どうかロータリーの友情に免じて御寛容の程をお願い申し上げます。

例年地区協議会は、午前と午後にわたりましても、1日間で消化しておりましたが、今回は当福江市で開催のため、交通機関の関係上どうしても2日間にまたがることになりました。そのため御出席の会員の皆様方誠に大変と存じますが、せめて本夕の懇親会でごゆっくりくつろいで戴きたいと存じます。ささやかではありますが、五島の味を御賞味戴ければ幸と存じます。

申すまでもなく、地区協議会は新年度のクラブ役員及びクラブ指導者の研修会であります。どうか、この初の島での協議会の勉強が稔り多きことを祈念致しまして、誠に簡単な粗辞でわざいますが、歓迎の挨拶と致します。



## あいさつ

ガバナー 井田 圓之

御紹介をいただきましたガバナーの井田でございます。

本日は、先ほどホストクラブの福嶋会長がおっしゃいましたように、はるばる海を越えて、いろいろ不便な点もございましたでしょうけれども、おそらくここへお集りいただきまして、本当にありがとうございました。そしてまたパストガバナーの皆様方、ノミニーの皆様、この離島で恐らく初めてであり、また今後しばらくは開催されることがないであろう地区協議会に集まっていたことを心から感謝を申し上げる次第です。幸いに、心配いたしておりましたお天気が大変よくなりました。予報によりますと明日までは大丈夫のようでございます。これはやはりロータリアンの皆様方の普段の御精進のたまものでございましょうし、またいろいろと心を碎いて御準備をいただきました野田ノミニーを始めとするこの福江のクラブの皆様方、一生懸命に準備をされたその結果であろうかというふうに思います。

そして、やはり離島のハンディキャップがございます。ずいぶん周到に御準備をなさったようでございますけれども、航空会社の機材の都合その他で時間がどうしても当初予定をいたしましたところへおさまりきらずにずれてしまいまして、ずいぶんお集りの皆様方には御迷惑をおかけしたと思います。しかしながら、皆様一生懸命に御準備をなさったことでございます。どうかひとつロータリアンの友情に免じて気持ちよくこの大会を盛り上げることに御協力をいただきたい、かように存するわけでございます。

いつも私申し上げるのですけれども、今までこの274地区のいろんな行事がございました。そのたびに福江の方からもずいぶんと御協力をいただきました。その方が集まっておいでになるために、私どもが今日経験をしたのと同じように、また天候の悪いときには1泊、2泊と滞在が延びるというような形ですね、にもかかわらず今まで御協力をいただいてきた。そのことが自ら体験をしてみてよくわかるわけでございます。そういうことをお互いに本当に理解をしあって、手を取りあってこの地区的行事、我々の奉仕というものを盛り上げていくのが私どもの務めではなかろうかと、かように存

じております。

どうかひとつそのようなことをお考えになりながらこの地区協議会、国際協議会でいろいろと次年度のことについて御勉強をなさってこられました野田ノミニーの方針をしっかりと体得をなさって、7月1日から始まります皆様方の年度にどうかひとつより一層の御尽力、御精進をお願いいたしまして、私のごあいさつにかえさしていただきます。

予定の時間がどうなりますかですけれども、私は野田ノミニーになるだけ時間をたくさん差し上げたいと、そうしてじっくりと次年度の方針をお話願いたいなあと実は思っております。どうかよろしくお願ひを申し上げます。

### （ 地 區 協 議 会 ）

本年7月1日開幕の地区協議会は、前回は主として農業問題、文化政策などの問題で取り扱われた。

今度はより大掛かりな課題はここではござらず、主として財政と上り物と減税問題などに専念されるほか、より農業問題を中心とした農業問題が中心となり、また農業問題の発展問題と並んで農業問題と、それより大きな問題である土地政策が中心となり、これが農業問題を中心とする地区協議会に大きな影響を及ぼすことは、必ずしも想い難いことではあるまい。そこで本題は、地区協議会が開催される段階においては、土地問題を中心とする問題が、必ずしも重要な問題とならざるとは思はずである。

地区協議会は、地区協議会は農業問題を中心とする問題と並んで、地代問題が大きな問題となる。これは、地区協議会が農業問題を中心とする問題が開催される段階においては、必ずしも想い難いことではあるまい。しかし地区協議会が開催される段階においては、必ずしも地代問題が大きな問題となる。これは、地区協議会が農業問題を中心とする問題が開催される段階においては、必ずしも想い難いことではあるまい。しかし地区協議会が開催される段階においては、必ずしも地代問題が大きな問題となる。

地区協議会が開催される段階においては、必ずしも地代問題が大きな問題となる。これは、地区協議会が農業問題を中心とする問題が開催される段階においては、必ずしも想い難いことではあるまい。しかし地区協議会が開催される段階においては、必ずしも地代問題が大きな問題となる。これは、地区協議会が農業問題を中心とする問題が開催される段階においては、必ずしも想い難いことではあるまい。しかし地区協議会が開催される段階においては、必ずしも地代問題が大きな問題となる。



## 新 年 度 の 方 針

ガバナー・ミニー 野 田 久 雄

野田でございます。

本日、井田ガバナーの御指導のもとに、またパストガバナー各位の御激励のもとに1986年、87年度の地区協議会を開催することのできましたことを非常に光栄に存じておるものでございます。また、各クラブの会長さん、幹事さん、各委員長さん方、たくさんお集りをいただきました。特に地理不便な当地に快く御参加いただきましたことを心から敬意を表し、厚く感謝申し上げます。

私どもはクラブ、または地区の会員の皆さん方の期待に応えますためにお互いに手をつなぎあって、先輩が残してくださったこの274地区の業績をさらに発展させますためにエネルギーを惜しみなくささげていただきたいと存じます。

私は終点のないロータリーマラソンの中間ランナーといたしまして、井田年度の輝かしい業績を受け継ぎまして、ロータリークラブの活性化と奉仕水準の向上に微力を尽くしまして、次の田中丸年度にお譲りしたいと思っておるところでございます。

そして、この1年間時間的に、また経済的に多くの犠牲を払っていただきます皆さんと共に心に残る1年でありたいと熱望しておる次第でございます。かつまた、皆様方の御協力を期待しているところでございます。

皆さんは既にロータリーの歴史や理念などにつきましては十分御精通なさっておられる方ばかりでございますので、今さら私がロータリーについて申し上げることは何にもございません。しかし、ロータリーの目的を達成するために最も大切なことは、積極的な実践にあると思います。そのためにはどうか十二分にロータリーの実践の意義を御理解いただきたいと思っております。

本来ロータリーの活動の責任単位はクラブ自身であることは申し上げるまでもございません。RI会長にしましてもRIの理事会にしましても、ましてガバナーといえども皆様に命令する権限はございません。ただ、各クラブがそれぞれ特徴のある奉仕活動を推進していただくように希望しているものでございます。

私は各クラブの**独自性**を、**独創性**をできるだけ尊重いたしまして、各クラブの体力、体質、環境に応じて自主的積極的に国際ロータリーの方針に沿われてプログラムと取り組んでいただきまして、來るべき年度を成功に導き、ロータリーが地域社会から高く評価を受けるようなロータリーの作り方を、あり方を計画立案していただきたいと考えているものでございます。私はロータリーの構造も、ロータリーの奉仕ももっとシンプルなものに受け止めたいと念願しております。例会を中心にいたしまして、諸行事、諸活動に積極的に参加することに会員の皆様方の御理解を深めまして、ロータリークラブを活性化する方向で取り組んでいただきたいものだと思っております。そうして**ロータリアン**がそのことによって成長し、自己のクラブを魅力あるものにいたしまして、その結果として新しいクラブが誕生し、会員増強が実現する姿が最も望ましいことではないかと思っております。

私は去る1月25日から2月1日までナッシュビルの国際協議会に出席してまいりました。8日間はとてもハードなスケジュールでありましたけれども、終わってみまして非常な感激を覚えました。447名の世界各国のノミニーと言葉は通じなくても、ただ微笑みを交わし、肩を叩きあい、うなづくことによって、また、握手することによって、非常に温かいものを覚えました。わずかな知識を上積みした喜びよりも、こうして世界のノミニーたちと友情を交わし得たことに非常な感激を覚えております。

国際協議会におきましてはカドマン会長、M.A.T. カパラスRI会長エレクト、もとRI会長、理事の方々の講演が行なわれました。今からその内容をかいづまんで御報告いたしますとともに、いささか私の私見を交えながらお話をしたいと思います。

まず、その前にM.A.T. カパラス会長エレクトの示されました本年度のRIテーマを御紹介いたしたいと思います。資料の1ページにも書いてございますし、また、ここにも下げるがございますが、**ロータリーは希望をもたらす(ROTARY BRINGS HOPE.)**これが本年度のRIのテーマでございます。この内容につきましては種々27名の日本人のノミニーが議論を交わしまして、いかにして簡潔に、またわかりやすく皆様にお伝えするか意見の交換をいたしまして、次のようなことで結論を得ております。

ロータリーは御承知のように80年以上にわたりまして貧しい人、障害のある人、失意の人々の生活にさまざまな形で奉仕してまいりました。ロータリアンは数多くの奉仕のなかで飢えに苦しむ人を救い、幼児に、若い人々に輝ける幸せな未来を、また孤独な人にとっては慰めを与え、自分や子供たちの生活の向上の夢が遠からず実現されるであろうと期待を持たれる希望の光となってまいりました。そして、ロータリアンの献身的な奉仕は絶望の淵に立つ人々を奮い立たせ、よりよい明日を目指す希望を全人類と分かち合い、行動を通じて希望を実現するように力を尽くしてまいりました。ロータリーの奉仕を積極的に推進し、ロータリーの組織を最大限に活用して努力するならば、世界の人々は間違いなくロータリーは希望をもたらすと言うであります。これが大体RIのテーマの要約でございます。昨年まではRI会長テーマ、あるいはターゲットと言っておりましたが、本年度はRIテーマというふうに統一されたそうでございます。

第1日目のM.A.T. カパラスRI会長エレクトの御講演の要旨を申し上げます。

まず最初に、我々はクラブ、職業、地域社会、国際理解の増進に奉仕するだけでなく、ロータリー精神を助長し、組織を強化し、運動を拡大していくことがロータリー活動のうちで最も優先すべき課題であると、こう申されました。組織の拡大は新クラブの結成と会員増強の継続にまたなければなりません。会員増強の継続につきましては、新しい希望の光をもっと多くの人々にもっと多く地域に注ぐために会員を増強して大きな奉仕の機会をつくるなければならないと強調されておられました。全世界160ヶ国、クラブ数2万2千、会員数100万を超える現況からいたしまして、1クラブ1名の純増を図ればほぼ1千クラブの新しいクラブが誕生したことになるというふうに説明をされまして、過去5カ年間の会員の増強は平均4人に1人で、4カ年に会員1人が増えたことになるそうでございます。そして、退会者が毎年10%、約10万人いるそうでございます。そのうちの60%が死亡その他によるやむを得ない退会者ですが、あと40%は理由不明瞭な退会者でありまして、平均年齢は47歳ということでございます。したがって、クラブの会員数を50名としますならば退会者10%で5名でございますが、その5名の40%は2名になります。その2名の方を思いとどまらせることに全クラブ努力をしなければならないという御要請がございました。また、ウイリアム・B・ナイストロムRI理事、恐らく会員増強の担当の理事だと思いますが、その方はこう付け加えて、ロータリークラブが存続して、その潜在力を伸ばそうとするなら会員獲得と退会防止に邁進する以外に道はないとの申されました。

早期退会の理由といたしまして、親睦の欠如、出席条件。第2番目には情報が不十分であること。3番目には個人として関与することがない。この3つが主な原因だそうでございます。ロータリーを退会する人で何らかのクラブの役に付いたことのある人はわずか58%であります。しかし、会員資格を保持し続けている人の90%はクラブの役員を務めたことがあるか、または現在クラブの役員である。将来新会員に対する配慮をこういう点にも注意を向けなければならないかと存じます。

会員増強につきまして、いささか私見を述べさせていただきますならば、いつの年度にも私どもは会員増強をガバナーからお聞きしてまいりました。いわゆる会員増強、あるいは新クラブの結成ということはロータリー最大の命題であり、また、ロータリー永遠の課題であると思うのであります。私どもはロータリアンとして自分の影響力の及ぶ身近なところからロータリアンとして価値のある人をもっと粘り強く注意を払って会員増強に努力して、ロータリーの拡大を図っていく必要があると思うのであります。ロータリー会員増強の多くはクラブ内の増強よりも新クラブの結成によってもたらされると言われております。幸いにいたしまして、当地区におきましては岩永直前ガバナーの英断によりまして、数多くの候補地域に特別代表が任命されております。私はこの岩永直前ガバナーの熱情と英断に花を咲かせることに懸命の努力を払わなければならぬと決意をしている次第でございます。

そこで、本年度当地区におきましては各クラブに少なくとも**会員3名の純増**をお願いいたしたいと思います。5名の退会者があるとすれば8名の会員獲得が必要になります。そして、注意をしていただくことは、クラブの老齢化を防ぎますために、現在の会員の平均年齢よりも低い人の入会をはかる

ように御配慮を願いたいと、かように考えます。

次は、職業奉仕についてエレック・ファービーRI理事のお話がございました。非常に多岐にわたる御講演でございましたが、最後に職業奉仕計画の提案といたしまして、5つのことを申されました。まず、職業プロジェクト指導パンフレットの作成。2番目にどの職業プロジェクトにも最終的には必ず成果が上がらなければならない。3番目に4つのテストを幅広く解釈できるようにする。4番目に各ロータリアンに参加の機会を与える。5番目に効果的な職業奉仕のコミュニケーションを築くこと。

それで、この職業プロジェクト指導パンフレットの内容につきましては、職業相談を含めて失業中の青少年を援助をする。2番目に高齢者に心遣いを示す。3番目に麻薬乱用について地域社会に知らせる。4番目に地域間で国際職業人交換、または青少年職業人交換を育成する。5番目に障害者のために職業訓練集会を実施する。こういう5つの提案がなされました。どうか、ひとつずれの機会かロータリーの友あたりに掲載されると思いますので、各クラブでは自己のクラブにおきまして職業奉仕に対する認識を深めるように御努力をお願いしたいと思います。

私どももよくこの職業奉仕部門はよくわからないということを耳にいたしますが、職業奉仕という部門は他の奉仕団体に見られないロータリーだけの特色でございます。

そして、ロータリアンのすべては1業1員の原則のもとに地域から選ばれた良質の職業人であるという自覚を持つべきだと思っております。そういう自覚の上にたって自分の職業を確固不動なものに繁栄させることによって他人への思いやりを持つようになります。また、他人に対して温かい手を差し伸べる動機にもなろうかと思います。こういうふうに他人への助けを与えるということが職業奉仕の基本的な考え方ではないかと思います。もう一つの要素といたしましては、自らの職業の発展に協力してくれる従業員、また取引先、また同業者、あるいはロータリアンでない人々に単に生計を立て、私財を蓄えるものでなくして、社会に貢献し、人生を豊かにしていくためのものであるという理念を理解せしむるような指導的役割を果たすことがロータリーにおける職業奉仕ではないかと私は思っております。

次いで、青少年活動でございます。現在、インタークトは我が地区には21クラブで642名の会員がございます。全世界では83カ国、4900のクラブがございます。ローターアクトにつきましては107カ国、4,900クラブ、98,000の会員がおります。当地区では137クラブ256名が現在会員として入会しております。

次はRYRA、ロータリー青少年指導者養成プログラム、これはオーストラリアで発足いたしまして、急速に世界中に広がっております。このために青少年活動を重視された井田ガバナーは今年度予算の増額を図っていただきました。青少年活動費に20万、ローターアクトに40万の増額がなされております。ローターアクトにつきましては、どうかひとつ今度は長崎地区でございますが、押しつけのプログラムをつくるんではなくて、彼ら自身の手によって作られるプログラムでやってもらうように、ひとつ御配慮が願えないかと思っております。なにしろ青少年は私たちの遺産であります。ある意味

では私たちの生命の延長であるかもしれません。青少年訓練の成否は地域はもとより国家の盛衰をも左右する重大な影響があろうかと存じます。

次は国際奉仕でございますが、時代はコンピューター、人工衛星、迅速な通信システム、こういうものの発達によりまして、非常に小さくなりつつあります。だから国境とか、人種とか、そういうものを区別する閉鎖の時代ではなくて、世界理解の時代であるカーロ・ラビッツ R I 副会長が申されました。我々はこのときクラブ及び地区でのロータリアンの奉仕活動を地元地域社会から国際社会、つまり世界にまで拡大することが望ましいと思われます。

次は、向笠RIもと会長の御講演でロータリー財団につきましていろいろ御説明がございました。詳細は省かせていただきますが、今ロータリー財団では100万人の児童にポリオ経口ワクチンを与える計画を進めている。世界理解のための新しいプログラムとして大学教員のための補助金が6カ国10名の大学教授に授与される。それで私は本年度当地区におきましてはロータリー財団への寄付の総額を少なくとも今年度実績の10%増やしていただきたい。そのことに会長、幹事さん、委員長さん方の御努力を願いたいと思っております。

次は、ポリオプラスでございますが、RIはポリオ撲滅運動を展開いたしましたけれども、世界の児童の苦しみ、あるいは死亡率、それらはただ単にポリオだけではない、麻疹、破傷風、百日咳、ジフテリア、結核、猩紅熱、こういうもので侵されて死んでいく子供が30分という時間に100人の児童が亡くなり、100人の障害者が出ているということでございますので、これを助けるためにポリオにプラスして前に述べましたような疾病に対してでも免疫を図ろうと、免疫投与をやろうと、そしてこれをロータリーの創立記念100周年に当たる2005年までに完遂しよう。このことにつきましては、本日岩永パストガバナーのスライドを使っての御講演がございますので、どうか御理解を深めていただきたいと思います。

当地区に置きましてポリオプラス委員会が新しく新設されました。これは1億2千万ドルの経費を民間人も共に、ロータリアンと共に基金を募集するという計画でございまして、そのための委員会が発足するわけでございます。どうかひとつ、まだ詳しいことは私の手もとに来ておりませんけれども、井田ガバナーが当地区的日本委員として御活躍願うことになっておりますので、いずれか詳しい事情が聞けると思っております。

以上が大体国際協議会における各関係者の御講演の内容でございます。しかし、詳細にわたって申し述べます時間がございませんので、今簡略に、そして拙い私の私見を加えて御報告を申し上げたところでございます。どうかひとつ御理解をお願いいたしたいと思います。

M.A.T. カパラスエレクトが閉会の言葉のなかでこういうことを申されました。「ロータリーに人々を引きつけよう。奉仕を友情に結びつけよう。会員の増強に最善を尽くしてもらいたい。しかし、目標を達成できないからといって失望してはいけない。時間をかけければ目標というものは必ず達成されるものである。そして、お互いに助け合ってロータリーのために努力していくじゃないかと。ロー

タリーが全世界の人々から希望をもたらすという考え方を持っていただくように、我々は全組織を挙げてロータリーの奉仕の理想を達成しよう」ということでございます。

まことに、以上簡単に、足早に申し上げてまいりましたが、もちろん十分ではないと思います。不十分きわまりないと思いますが、どうかひとつこの1年間、先ほども申し上げましたように努力を惜しまないで、パストガバナー各位の御指導を仰ぎながら、この大切な1年を皆様と共に心に残る1年として、善意と勇気を持って私は務めを果たさせていただきたいと思います。どうかひとつよろしく御協力のほどをお願い申し上げます。

大変遠いところからおいでになられまして、皆さんのお疲れのところ恐縮に存じますが、今日、明日の協議会が実りあるものになりますように祈念をいたしまして、私のごあいさつを終わらせていただきます。ありがとうございました。



## 基 調 講 演

パストガバナー 岩 永 光 治

### ポリオプラスについて 規 定 審 議 会 報 告

基調講演ということで、私が2月に参りましたときの規定審議会の御報告と、それからまた、先ほどから野田ノミニーから御紹介ございましたように、ポリオプラスのお話を一緒にさしていただきまます。大変皆様方お疲れのところでございますが、私にこの話をぜひやってほしいということでございますので、私のお引き受けしているわけでございます。本当に貴重な時間でございますので、40分を与えていただいておるようでございますが、最初はこのポリオプラスのお話をいたします。

これは、あの野田ノミニーのところにRIの方からスライドが送ってきてるんでございます。このスライドに基づいてお話をした方がわかりやすいということで、これをまずいたします。そして、その後私が代議員として出席しました規定審議会の御報告をするつもりでございます。

それでは、まずポリオプラスにつきましてお話を申し上げます。これは私の年度に、即ち84年、85年度のカルロス・カンセコ会長さんが示しましたテーマ「Discover a new world of service」这样一个テーマがございましたが、そのテーマの実践に当たりまして、6つの挑戦を我々に呼びかけられました。その5番目の挑戦にポリオ2005というのがございましたですね。ポリオというのは小児マヒのことでございますが、小児マヒをこの2005年まで、2005年というとちょうどロータリーの100周年に当たるんだそうでございます。ロータリーの100周年、あと20年後までにロータリーが旗を振って、そしてこの世界の隅々に子供たちを救おうという遠大な計画でございまして、そういうことで起こったことをご存じと思います。

そして、私のとき、この地区といたしまして協力をすると、いわゆるこの世界社会奉仕を通じて協力をすることになりましたし、また、クラブの皆様方に呼びかけまして、43クラブのうち27クラブの方々がクラブが御賛同を得まして、それぞれ拠金をいただきました。これをインド、それからスリランカのクラブでやっておるこのポリオの計画に賛同していただいたのでございます。それで現在もなお世界社会奉仕としてこれは続けてやっておるわけでございますが、それを今度何といいましょうか、あの今度の計画ではそれだけじゃなくて、そのポリオのほかに子供の病気がたくさんございます。例

えば麻疹だとか、あるいはジフテリアだとか、破傷風だとか、結核だとか、そのほか百日咳ですが、こういうふうなものの5つを加えるということで、プラスするということで、ポリオプラスという名前を変えたんでございます。

こういうことで、これらの子供たちがポリオだけでも毎年5万人の子供が死んでおりますし、50万人の障害者が出ておるわけでございますし、このほかの5つの伝染病を加えますと、350万人、あるいは500万人という子供たちが死んでるということだそうでございます。これを何とかロータリーが取り上げようと、ちょうど世界の天然痘が1970年代でこの地球からなくなりましたですね。これはイギリスのジェンナーが、有名な話でありますからご存じのとおり、ジェンナーが種痘を考えだして、発見しまして人類のために天然痘から救いましたですね。これが200年かかっておるんだそうでございます。それをロータリーが、ロータリーの100周年までに、即ちこれから20年の間に地球からポリオその他今申し上げました5つの伝染病、即ち6つの小児の大敵をこの世の中から追放しようという計画でございます。

我々先進国の日本を始め、もう既に天然痘、あのポリオといいましても忘れかかっております。私達は昭和35年に日本に大流行したことをいまだに覚えております。そのとき政府は慌てまして、そのポリオのワクチンを、まだ日本にはございませんでしたが、輸入することを考え、また日本で製造することを考えたんでございます。そしてようやく日本にもこれを子供たちに使用いたしまして、今日ではもう忘れられかけておるようでございますけれども、低開発国におきましては先ほど言いましたように多くの犠牲者が出ております。

そういうふうなことでございますので、ロータリーのこの規定審議会でもこれは決議案として採用されました。したがいまして、ロータリーはこのような団体奉仕をやるということに一応賛同を得たわけでございます。しかしながら、これは後で話が出ますけれども、今度のラスベガス大会で10%のクラブの反対がありますと、だめになります。しかしながら、まず満場一致で決められたことございますから、恐らくこれは否決になることはないと思います。そうなりますと、7月1日からいわゆるこの実行に移されるということになるわけです。

私がいろいろしゃべっても始まりませんからこのスライドを見ながら、お話をした方がいいと思います。どうかひとつスライドをつけていただけますでしょうか。これは、あのRIの方から送ってきておる、野田ノミニーに送ってきておるのでございますので、本来は野田ノミニーがされるのが本当だろうと思いますけれども、私が医者であるし、また、そういうようなことで、ぜひやってくれと、今月号のロータリーの友5月号に私がこの件について載せております。ごらんになった方があると思いますが、どうぞひとつごらんになっていただきたいと思います。どうぞお願ひします。

## (スライド映写)

### ポリオ・プラス：挑戦すべき課題

先進国では、ポリオの脅威を知らない人が大人になりました。

先進国では、ソーク博士とセービン博士がワクチンを発見したため、ポリオは制圧され、ポリオに対する不安は消え去り、20年経過しました。

しかし、開発途上国では、子を持つ親は今なおこの不安に脅えています。年に50万人の人々がポリオのため障害者となっています。そのほとんどは子供です。さらに、毎年5万人の子供がポリオのため亡くなっています。

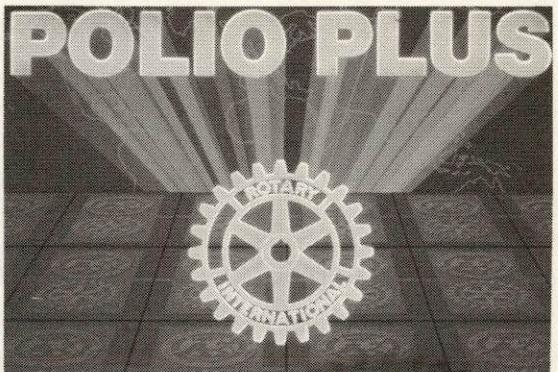
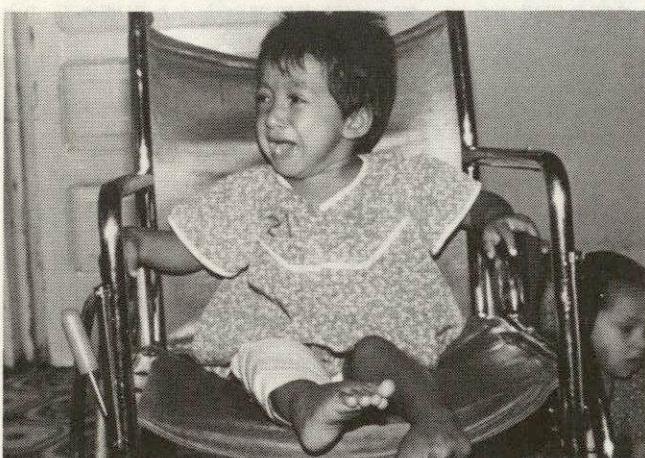
国際ロータリーは、160カ国100万人のロータリアンが人類への奉仕に結束している組織です。国際ロータリーは、この組織力に訴えて、世界の子供の予防接種に、また、この恐ろしい病の恒久的撲滅に、指導的役割を果たすことを誓いました。

しかし、これは、ロータリアンにどのような意味があるのでしょうか？

どうすればポリオの脅威に終止符を打つことができるでしょうか？

ロータリアンは、政府と国際的保健機関とともに、猛威を振るうポリオ・ビールスを防ぐための人道的事業に着手することになっています。1970年代に天然痘を世界から根絶したのと同じようにポリオを撲滅する運動をロータリーは始めました。

私達が、今、直面している状況はどのようなものでしょうか？ 開発途上諸国の5歳以下の児童で、ポリオの免疫を完全に受けているのは、25パーセント以下です。これを80から90パーセントくらいに増やし、数年間、この状態を維持できれば、ポリオを効果的に制圧することができましょう。



多くの開発途上国で、迅速で最大規模のポリオ予防を達成する効果的な方法は、5年までの間、毎年、特に1カ月またはそれ以上の期間に、連続的に大規模な3日間にわたる予防接種日を、免疫を受けていない児童を対象に実施することあります。これには、政府の保健機関、報道機関、民間団体および民間人とともに、多くのボランティアを動員すること

が必要であります。

このような方法は、ますます多くの国で成功を収めています。ブラジル、コロンビア、トルコ、メキシコ、パラグアイ、スーダンなどで成功しています。多くのロータリアンが、これらのキャンペーンのほとんどに携わってきました。

ロータリアンがこれらの国々で実施した重要な仕事は、免疫運動の起動力となり、さらに推進力となることでした。

ロータリアンは、自ら、または、民間人とともに、いろいろなものを製作して、これを成し遂げました…ポスター、広告、ラジオ・テレビの公共奉仕のアナウンスメント、新聞記事で、免疫の重要性を強調したのです。

キャンペーン中もそのあとも、ロータリアンは、通常の免疫業務を強化するために政府に協力しました。ロータリアンは、人材養成に、また、健康管理施設の建築・改良に、冷凍設備の提供に、自國の第1次健康管理設備の充実に、協力することができます。このすべての方法を実施することによって、世界中の母親が恐れるポリオその他の疾病を効果的かつ継続的に予防することができるのです。

ロータリアンは、実業および専門職業人として、奉仕活動の価値と費用効果を理解しています。ロータリアンは知っています。1人の子供にポリオ・ワクチンを提供するために12セント使うことに、それだけの価値があるということを。なぜなら、12セントでワクチンを購入しない場合、ポリオの犠牲者のリハビリに数千ドル充てなければならぬからです。

さらに、多くの開発途上国は、当然のことながら、ポリオの犠牲者にリハビリを行う余裕は、ほとんど、或いは、まったくないのであります。

この12セントを使うことは、まさに、「投資」であるということをロータリアンは知っています。12セントには、1人の子供の経済的にも実り多き未来への可能性が秘められています。別の恐ろしい道には、希望のない人生、機会のない人生が待っているかもしれません。

ロータリアンは指導者ですから、地域社会に働きかける方法を心得ています。また、ロータリアンが突破口を開き、勢いを増しながら免疫活動を推進すれば、第1次健康管理に大きな影響を及ぼすことになるということもロータリアンは知っています。このようにして今度は予防接種その他の基本的健康管理に対する要望が、それらを最も必要としている人々の中から、わき上がってくることになります。

ロータリーと他の機関は、人命を奪い、障害者を生む小児病のうち主なもの六つに照準を合わせました。ポリオはこの六つの小児病のうちの一つです。ほかの五つは、はしか、ジフテリア、百日咳、破傷風、結核で、やはり、免疫によって予防できます。同時に、この六つの疫病は、開発途上世界の幼児死因の25パーセントを占めています。六つすべての疾病的予防接種に要する費用は、およそ米貨5ドルであります。そのうえ、六つの予防接種を同時に行うことができます。

ですが、ロータリーが、この5ドルのうち12セントしか負担しないとしたら、開発途上国および世

界保健機関やユニセフなどの国際的保健機関は、ロータリーとの提携に、どうして、これほど心を動かすのでしょうか？ 例えば、国連創立40周年の会議で、「世界のすべての子供が予防接種をうけられるようにする国連宣言（The United Nations Declaration of Universal Child Immunization）」に調印するために、各國主脳とともに、六つの非政府団体

（NGO）が招待されましたが、ロータリーはその一つであります。この理由は何でしょうか？

これらの諸機関は、ロータリーに自分達のできないことをする力がある、ということを知っています：すなわち、ボランティア「部隊」に行動を呼びかける力があります；また、最大の成果が得られるように実業および政府と交渉する力があります；さらに、多数の人を動員する社会活動に不可欠な民間レベルでの全国的指導力を発揮する力があります。保健機関は、ロータリーには、効果的に行動し、成功するまでやりとげる力も意思もあることを知っています。

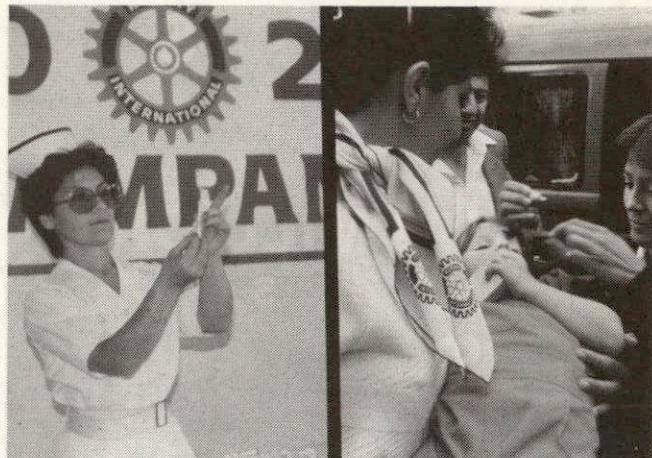
メキシコでは、ポリオ・プラス・プログラムによって900の冷蔵庫と3,200万服分のポリオ・ワクチンが提供されました。メキシコには470のロータリー・クラブがありますが、実質上、すべてのクラブが1月に実施されたメキシコの予防接種日に携わりました。ロータリアンは、今後のキャンペーンでも同じことをすると約束しました。

ロータリアン達は、活動を入念に計画するために何週間も前から、国、州、地元の保健官と協力しました。

1人のロータリアンの働きがあって、国中の健康管理センターに50,000の冷蔵ボックスを届けることができました。このロータリアンは、任務達成に、会社所有の全トラックを充てました。

さらに、多数のボランティア・ロータリアンが、予防接種日に家から家へと訪ね、母親に接種会場を知らせました。

ロータリーの参加を得て、メキシコでは、1日で、1,000万人以上の子供が免疫を受けました。80パーセン





トをかなり上回る数字です。

トルコでは、ロータリーは、ユニセフとトルコ赤十字と提携していますが、3回続けて、全国予防接種「週間」が組織されました。400万を超児童が、標的とされる六つの疾病のうち五つの免疫を受けました。地元のロータリアンは、この大規模な努力を成功させたことに対し、政府から公に称賛されました。

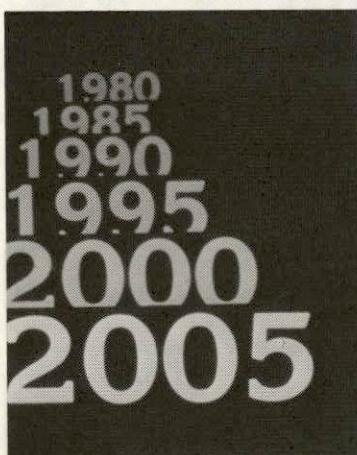
ロータリアンは、ペルー、ナイジェリア、グアテマラ、インドネシア、インドで予防接種を開始または強化するために、今、準備しているところです。パラグアイ、トルコ、メキシコ、スーダンで目のあたりにした成功を繰り返し実現するために、ロータリアンは、政府および国際的、全国的、地域的保健機関と提携して働いています。

国際ロータリーは、現在ポリオ・プラスと呼ばれるプログラムを通じて、接種が承認されている免疫プロジェクトに対して最高、連続5年間、必要なだけのポリオ・ワクチンを提供するために、米貨1億2千万ドル集めると約束しました。

この資金は、R.I. 免疫接種機動部隊の費用にも使われます。機動部隊のメンバーは、子防接種の方策面の経験豊富な人で、政府から招聘されれば、直ちに派遣され、ロータリーの支援を組織化し、全国予防接種日中のワクチンの輸送について保健省に助言します。

私達の目標は、相変わらず同じであります：ロータリー創立100周年までにポリオを撲滅することです。政府および国際的保健機関と前例のないような提携と共同参加が行われています。このことを考慮すると、はるかに早い時期にポリオを撲滅できると思われます。直ちに行動すれば、ポリオその他の死と障害をもたらす病気の惨害から数百万人の児童を救うことができます。

この参加は、全ロータリアンが取り組むべき大きな課題を表しています。私達は、ポリオ・ワクチンのために米貨1億2,000万ドルを集めると同時に、ロータリー財団の他の教育的、人道的プログラムを引き続き支援するよう要請されています。こ



のことを効果的かつ統制のとれた方法で達成する役に立つように、ロータリーは、募金機構を開始しました。国および地域を基盤とする機構によって、ロータリアンからも一般の人々からも募金することを目的としています。著名なロータリアンによって構成される44の募金委員会が世界中に結成されました（私達の地域の委員長は、東京都の渡辺和美氏であります）

委員会は、1986年7月1日までには活動し始めることになっています。活動の1年目は、大口寄付をしてくれそうな人を見極めることに充てられます……ロータリーの世界的ポリオ・プラス活動に数十万、数百万ドルの大口寄付をまっ先にしてくれる個人、法人、財団を確認します。1年目の間、この委員会は、一般を対象とする募金キャンペーン計画も立てることになります。この委員会の責務は、ロータリアンおよび一般の人々から募金すること、表彰すること、また、集めた資金を中央事務局に送ることであります。

調整された国際規模の一般を対象とするキャンペーンは、1987年6月にドイツ、ミュンヘンで開かれるロータリー国際大会で正式に発足します。キャンペーンは、1990年6月30日まで続きます。

しかし、ロータリー・クラブは、1987年のスタートを待っていられません。クラブは、既にポリオ・プラスのために募金し始めました。この行動力は称賛に値し、ロータリーの活力と熱意を象徴しています。

世界中で、ロータリークラブ、ローターアクトおよびインター・アクト・クラブ、ロータリー婦人親族グループが、競売、夕食会、宝くじ、スポーツ大会、ダンスパーティーなど……ポリオ・プラスのために……募金の可能性のあるあらゆる催しを主催しています。

いろいろな推進活動がありますが、店に募金箱を置いたり、著名人にラジオ・テレビのアナウンスメントを読み上げてもらったり、特製のおもちゃを販売したりしている地区もあります。

ポリオ・プラスはロータリアンに何を意味するでしょうか？ 金銭とともに時間と活力を捧げるこ  
とを意味します。多くの人にとっては、荒涼とした村に至る、ほこりっぽい道を歩み、母親に免疫の必要性を訴えることを意味します。

ポリオ・プラスは、ロータリー・クラブと地区を調整し、保健省と協力するのにふさわしい人を見つけることを意味します。金銭や物資の寄贈に協力してくれる職業上の知人を探すことを意味します。骨の折れる仕事や無私の奉仕を意味します。しかし、これらのこととは、ロータリアンにとって初めてのことではありません。ポリオ・プラスは、まだ生まれていない子供達への私達の約束です。やがては、平和に包まれ、元気で……歩き出し……遊び……  
学び……成長していく子供達に対する私達の約束です。

そして、私達の任務が終わったとき……私達が成功を収めたとき……次代の人達が言うでしょう。

ロータリーが鍵だったと……

ロータリーが……希望をもたらしたと。

ご清聴ありがとうございます。



## 規 定 審 議 会 報 告

以上がポリオで、スライドでいたしましたが、おわかりになったかと思います。

次は時間がありませんので、規定審議会のお話を次はいたしたいと思います。規定審議会は先ほどちょっと申し上げましたけれども、私この2月に参りまして、すぐガバナーにお願いして月信に載せていただきました。ガバナー月信の10号に概況を早速載せましたので、既にお読みになった方もあると思います。また、この3月の上旬に各クラブの幹事さん當てに、今の幹事さんですが、RIの事務総長よりこの結末、いわゆるその採決されましたものにつきまして、69件でございますが、報告書を各クラブに送られておりました。これはそういうことで、既にごらんになった方もあると思いますけれども、案外ああいうふうなものは各クラブとも非常に関心が少のうございまして、恐らく各クラブのどこかに置いたままになっておるかもしれません。ごらんになった方あられるならちょっと手を挙げていただきたいと思いますが、パラパラとでございまして、ありがとうございます。そういうことで非常にロータリーで大事な規定審議会でございますけれども、それで決まりました案件はそのように国際大会の始まる90日までにRIの事務総長より各クラブに送られて来ます。最近は日本語で来ておるわけでございます。これについてだめな分はだめというその×印を付けるようになっておりますが、それをRIからはこういうものです。こういうものが送ってきておるわけです。これずっと採決になったものですね。そしてそれに対するこの番号が順にありますて、これにずっと×をするとか、反対なら。これをRIに送りますとそれが全世界のロータリークラブから集まりまして、10%を超すようになりますと、それは否決になってしまいます。せっかく決められても世界大会でこれがまだだめということになるんです。で、これが返事を出さずそのままほっとけば賛成ということになるわけです。そういうことでございますから、ほとんどこれはそのまま置いてあるは

でございますので、賛成ということになるわけですね。ところがロータリーはけしからん。あんなことを、募金を決めたり何だりけしからんと一生懸命言うけれども、全然これに×をされる人もいらっしゃらないわけでございまして、こういうことはやはり日本の場合は特にうるそうございますけれども、なかなか提案も少のうございます。日本からの提案はたったの9件でございます。9件というのは多い方でございますね。今までに。9件出ていますけれども、たった1件だけ採択されました。その採択されたのは何かと言いますと、ロータリアンは何と言いましょうか、植樹をせろと。木を植えろということです。なぜかと言いますと、これは浜松東ロータリークラブから提案、出た案でございますが、空気が汚くなつておると、だから自分たちの地球をきれいにするためにロータリアンは率先して木を植えようじゃないかということなんです。これは通つたんでございますよ。だから、通りましたからこれに反対するものはおらないと思いますので、7月1日から実行に移されますので、我々は1年に10本どこでもいいから木を植えにやいかんようになるんです。これが日本から出したたった1つの通つたものでございます。ほかは全部だめです。否決でございます。

そういうようなことでお話を、これ見られればわかりますけれども、規定審議会では日本はたった1つだけが通つております。なにしろ255の件数です。すごいでしょう。255件でございます。それを4日間で審議するんですから大変でございまして、3年前の規定審議会、モンテカルロでございましたが、鈴木パストガバナーがこれに出られました。その時でさえ相当なものだったろうと思います。その後鈴木パストガバナー具合が悪くなつて病気されましたが、とにかく今回の場合もシカゴというところは零下の、川が凍つている、私は川の凍つたとは生まれて初めて、見たことないんです。長崎しか知りません、冬は。九州の寒さぐらいしか知らない人間が、零下20度というとてつもないところで会

議がございまして、これも皆様方が1ドルずつ出していただいたもんですから、これはどうしても行かなければならぬ義務がございまして、1ドルずついただいたので行ってきたわけです。これに対しては報告する義務があるわけでございます。したがいまして、今日のような集りのときには代議員たるもの報告せろと、こうなつておるので、私はこの報告についてにさしていただいておるわけでございます。

そのようなことで、あの寒いところで4日間でやりましたが、最初は朝の9時から夕方の6時までということでございましたが、段々早くなりまして、30分ずつ早くなる。とうとう最後は7時半に開会になりました。朝の7時半から晩の10時まででございます。とにかくロータリーはむちゃくちゃでございます。人の使い方が。とうとう一人の代議員が心臓発作を起こしましてうっ倒れましてね、医者はおりませんかと。もう大騒動でございます。そういうふうなことでハードスケジュールでございましたが、案の定私が想像したとおりです。255件の提案をなんとかこなしましたが、何とこの中で先ほど言いましたように69件だけが通ったわけでございまして、いわゆる採決されたわけです。これも原案どおり通ったのが54件でございまして、修正の上に採択というのが15件、計69件で、否決されたのが83件でございます。だめとなつたものですね。そして撤回というのがございます。これは撤回とみなされるものと、あるいはその何といいましょうか、提案者自身から撤回されるものと両方ございますが、なんと102件あるんですね、それが。with drawというやつが102件でございます。そして保留というのが1件ございます。保留というのは何かと言いますと、どこのクラブでしたか、出ておりましたが、人権の月間をロータリーに設けると、ロータリーにはいろいろございますね。雑誌月間だとか、あるいはロータリー財団の月間だとか、いろいろございますが、ロータリーは人権月間を設けるという提案が一つ出ておる。北欧でしたかね。これはなかなか問題だというところで保留になりま

した。保留ということは初めて私も聞きました。1件です。

そういうようなことでございますが、重大な議案といたしましては、ロータリーの地域編成の変更がございます。これは従来世界は6つの地域に分かれています。我々のところはアジアでございますが、従来アフリカの地中海に面した方の北アフリカの方はセイナムというヨーロッパの方に入っており、アフリカの方を除きまして、西、東、中央、南の方のアフリカはアンザオといいまして、いわゆるそのオーストラリア、ニュージーランド、あの地域に入っておったんですけども、今度はアフリカ全部がセイナムの方に入るということで地域編成替えになったということでございます。これはまた、本当にどうしてアフリカの方がニュージーランドと一緒にかなと、オーストラリアと一緒にかなと思いましたが、案の定問題が起つてこれは編成替えになりました。これにつきまして、これは制定案の86の2号でございます。

それから出席の用件の問題、それから会員の種類の変更、こういったものが大きな大事な問題じゃないかなと思います。これもいろいろ議案がございまして、例えば出席の問題にいたしましては、特にメイキャップの問題がたくさん出ておりました。例えば海外旅行中は出席とみなせとか、あるいはそのひどいのは友人の何といいますか、葬式ですか、それに行ったらこれもメイキャップにせろとか、あるいはまた、何といいましょうか、家族が病気した場合に看病したらロータリーに出られんからこれも欠席とみなすなど、アホみたいのが幾らもあるんでございますが、恐らく古くからのロータリアンが聞いたら卒倒するような話でございまして、ひどいのは2週間に1回に例会をしなさいとか、そういうふうなものでロータリーの根幹に触れるような、まさにその古いロータリアンが行ったらばかじゃないかというような、そんな内容がじゃんじゃん出てくるのでございます。そして、事お金の問題ですね、人当分担金をまけろと、高すぎると、そういうようなこと。財

団の問題でもお金の問題は特にやかましく出る。全部インドでございます、これは。インドがなにしろすごい勢いでございます。提案はインドが1番多いんです。そういうようなことで、中身はいろいろございます。会員の資格にいたしましても、シニアアクティブと何といいましょうか、パストサービス会員の住居の変更に制限を、これも修正のうえ消されまして、提案どおり修正のうえ採決になりました。したがいまして、非常にあの今度から住居は問題なくなるわけですね。そういうふうな問題も出てまいりました。

また、あの婦人の入会の問題、これはもう毎回出るんだそうですが、今回も3分の2の反対でとうとうまた否決でございます。これについてはいろいろなことを言う人がございました。インドあたりから出ました代議員は、今年は彗星が出る年だと、ハレー彗星が出るときには何か大恐慌が起こるんだと、ロータリーにもまさに大恐慌が起ころうとしていると、どこぞの星占いじゃないですけれども、そういうようなことを言って、絶対反対だというのもありますしね、しかし、10何人の人が次から次と発言に並びまして、時間延長でございましたけれども、従来アメリカが大反対しておったのが、アメリカのクラブが11クラブが賛成しているということは注目に値する。恐らく婦人でなければならぬ職業分類というのもたくさんあるはずですね、あの婦人を入会と言いますと、だれでもかれでも婦人を入れるんじゃなくて、職業分類のあいているところにしきゃ入れないわけですから、なかなかこれも難しいんですね。そういうようなことで、ロータリーも変わっていくんじゃないでしょうかね、ひょっとすれば。しかし、とにかく婦人の入会は今回もまた否決されたということでございます。

それから大事なことは社会奉仕の提案が出ておりましたですね。これもRIの理事会の提案でございます。理事会が提案した、従来は社会奉仕というものは俗によく言われます、例の決議23の34号の問題でございますが、これにかわる

ような新しい方針が出たんでございますけれども、どういうものか最後の日にRI理事会は急遽撤回をいたしました。審議ができない。とにかく撤回という挙に出ましたので、みんな、特に日本から行っておる代議員は啞然としたわけでございますが、ある代議員は戦わずして勝ったと、こういうふうにおっしゃる方もございましたけれども、例の問題はそのまま据え置きということになるわけでございますが、その手続要覧から消えたことでロータリアン必携にその原文を載せると、手続要覧とロータリアン必携が文章の内容が違うところがあると、こういうことはいけないというのを日本からまた出したんでございます。これはダメでございました。否決になりました。

そういうようなことで、何と言いましょうか、今回いろいろ申し上げればきりがございませんけれども、とにかくこの件につきまして、もしクラブとしてこれは賛成できないという、今の69件の中にあるならば、この中にござりますならば、どうぞひとつここにX印をして6月3日までにRIの事務総長に着くように出していただきたいと思います。世界の10%を集めるというのは、これは大変なことだろうと思います。

私行ってみましてですね、ああいうところに提案できるのはその決議案と制定案と2通りございますが、制定案というのは国際ロータリーの定款、細則、それから我々のクラブの標準クラブ定款ですね、この3つを改正しようとするならば制定案でございまして、これは審議会が開かれる前の年の5月30日までに出さなきゃならないと、期限の制限がございますけれども、決議案というのは改正するんじゃなくて、改正を要しない要望とか何とか、そういうようなものになるわけですが、そんなものになりますとですね、これはRIの方針、手続、規定に関する案件でございますので、これは規定審議会の開かれる30日までに着けばいいんです。そういうようなことでございますので、しかもこれは各クラブが協議をされてクラブ独自でこれをするわけでございます。なにも地区大会に諮る必要も

ないんです。地区大会の決議として出しておるところもございますけれども、クラブ独自で出しておるところもございます。また、RIの理事会も提案していいことになっておるわけでございます。そういうようなことで、今回は非常に史上最高の決議案でございまして、決議案、制定案でございまして、そのような結果になったわけでございます。

大変駆け足でお話をしまして、ちょうど時間が来たようでございますので、この辺で私の与えられたお話を終わりたいと思います。どうも御清聴ありがとうございました。

さはア、出でりば處外の会大団地。すく入れか  
出で自由でやでりよどはせりておひちこよきこふ  
事実の1月1日より、たまにあらはるこみはづ  
もじうじほはづをつらふておひづる家賃は会  
が常時1回今、おひそめをひきらす。おまけ  
時、家賃が下りる。おひそめの某高架の高層上段  
で、おひそめが下りる。おひそめの某高架

---

## パネルディスカッション

---

### 第 1 部



## 地区協議会パネルディスカッション発言者表

	テ　ー　マ	リ　ー　ダ　ー	アドバイザー	パネリスト
第一 部	① ロータリーの親睦と新会員対策 (佐賀西)	G. 井田圓之 (佐賀西)	P. G. 北島常一 (佐賀)	服巻勝也 (唐津東)
	② 会員増強：クラブの取り組み方	〃	〃	野口十四朗 (佐賀北)
	③ 地域に密着する奉仕への思想 a 社会奉仕の立場から	〃	P. G. 逸見嘉彦 (佐世保南)	北川安洋 (武雄)
	③ 地域に密着する奉仕への思想 b 職業奉仕の立場から	〃	P. G. 岩永光治 (長崎)	松尾弘司 (佐世保)

それではただいまから開会いたします。  
野田カバナーノミニーごあいさつをお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

ガバナーノミニー 野田久雄君

従来と変わりまして、部門別協議会を1会場にいたしまして、各分区から代表の方の1名ずつ御登壇願いまして、リーダー、アドバイザーにはパストガバナーをお願いいたしまして、今からパネル・ディスカッションを行いたいと思います。いいますならばこの新しい試みでございましょうが、皆さんが幅広くロータリーの知識を得られますように、また、会場の皆さんからの御質問、御質疑を期待いたしまして、ただいまからパネル・ディスカッションを開会いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

リーダー 井田圓之君

皆さんお疲れのところ大変御苦労様でございます。時間が大変足りません。そこでですね、このディスカッションの進め方を簡単に前もつ

て御紹介申し上げておきます。パネリストの方にはお一方15分と申し上げておりましたけれども、それでは時間が足りません。十分に御勉強願ったものをお持ちになっていると思いますので、15分を10分に縮めてエッセンスをひとつ御発表を願いたいと思っております。

それからひとあたりこの4つの部門について終わりましたら、アドバイザーのパストガバナーの皆様方からそれぞれの項目について3分ずつひとつ御意見をちょうだいをする。それが終わったところで、さらにパネリストに2分ずつ補充をしていただく。そしてその後会場の皆様方から活潑な御質疑をちょうだいをいたして、パネリスト、並びにカウンセラーの諸先生方とやりとりをしていただくと、こういうことでもって1時間40分を最も有効に使いたいということでございます。

まず、ひとつパネリスト、第1のテーマにつきまして、ロータリーの親睦と新会員対策とい

うことで服巻勝也君、唐津東クラブに御発言をお願いします。

#### パネリスト 服巻勝也君

服巻でございます。実はここに間違って書いてありますように、唐津西クラブの福良さんがおすわりになるところ、急遽バトンタッチされまして、ピンチヒッターとして出されましたので、あんまり先ほどリーダーが申されましたとおり、十分に勉強してと申されましたですが、勉強する暇がちょっとございませんでしたので、十分皆さんのお話しにお答えできるかどうかわかりませんが、とにかく私のテーマのロータリーの親睦と新会員対策ということについて私の考えを述べてみたいと思います。

お引き受けしましてから、少し勉強でもしようと、実は関係の本を2、3見はしましたが、最近ロータリーの本であるところのロータリーベシックライブラリーとか、ロータリーズライフとか、いろいろ見てみると、その発生の歴史は非常に簡単にさりげなく述べられて、あたかもロータリーは最初から奉仕団体として位置付けられてあるような錯覚さえ受けております。今日もいろいろお話をございましたですが、ポリオプラスその他すべて奉仕団体としての考えというのが前面に押し出されてきておりますが、しかし、このロータリーの理想と由来の方ももう一回見直してみたいと思いまして見ますと、ロータリーの発生の前後、即ち1870年くらいから創立の1905年、その前後のアメリカは特にあのシカゴの世相、社会が手に取るように描かれてあります。このとき、この時代に非常に孤独な時代だったと思いますが、ポール・ハリスが隣人を集めて会をもとうとして、また、もったということが非常に発生で大切なところだったと思っております。これ即ち親睦から始まったんだということだと思います。

そういうことで、実はあのロータリーの友を見てみると、ロータリーとはというところに経済恐慌と書いてありますが、この時代に特に新会員として後にこの新会員対策のところで一番最初に考えなきゃならんと思いますが、新会

員として特に若い年代の方をといわれるときに、このいわゆる1905年前後のロータリー、シカゴその他の、どうして発生したかという状態をよく実は勉強して説明して、そしてしようとすることがないと大きな誤解を生ずるようになると 思います。

現在日本はやや不況でございますが、いわゆる飽食時代と言われた、いわゆる飽食時代のロータリアンは想像だにできないような時代だということが如実にここに書いてあります。その時代を想像しながらロータリーの発生というものを考えてみないと、やはり大きな間違いが出てくると思います。ただ、集まって食事をするということが、1週間に1回集まって食事をするということがいかに大切であるかということがいわゆるロータリーの活動の原点だと思います。これを事細かに実は書いてあるわけですが、そこで我々はロータリーの原点に時々かえってみる必要があると思われます。特に最近言われますところの飽食の時代、戦後非常に戦争を経験した時代の人にはある程度のことは知ることはできると思いますが、いささか文章に書かれた大恐慌などというのが簡単にわかるもんじゃなかろかと思います。そこで、ただ集まって飯を食うと、食事をすると、いわゆる共に話し合ってそしてお互いの店から物を買いあったり、お互いの職業のことをよく話し合う、また、お互いの職業をよく理解しあうと、これからいわゆる職業奉仕と、それからみんなで何か地域にひとつ役に立つことをしようじゃないかという気持ちが集まってきたときに、社会奉仕ということに発展してきたと思います。だからいざれにしましても、ロータリーの親睦といまさらここで我々が言うまでもなく、ロータリーの方は十分にご存じのことだと思いますが、時々はやはりこれを振り返ってみられんと、この飽食の時代のロータリーの創始の精神というのはわからないと、そういうふうに思います。

そう考えてみると、とにかくすべての原点は、ロータリーの原点はまず集まって友を得る。親睦から始まっていると考えます。ロータリー

ソングを歌うことにも、ただ単に、いつとはなしに歌い出されたんじゃなくて、やはり一つ一つ意義ある状態で発達して歌うようになってきていると思いますし、1業種1人にしましてもその他の職業分類、政治活動ができないとか、信仰に偏しないとか、こういうこともすべて親睦のためにできてきたものだと思います。このロータリーが日本に上陸してから、へたするとネクタイをしめてエリート団体になってきたような感じがしております。ひどいようですが、原点を今一度見直して、そしてこのいかにロータリーの親睦が大切であるかということを十分にひとつ考えて、そして、その次に奉仕というものを考えるべきだと思います。

最近は非常に会員増強を急ぐあまりに、ややもするとこの点が十分になされないままに規定に縛られたり、形式に振り回されたり、盛りだくさんのメニューによる奉仕に追われていやしないかと、そういうふうに考えております。そういうことで、親睦はまず自分のクラブの中の親睦、それも委員会ごとの小さな単位の、家庭持ち回り、事業所を持ち回りした親睦、これが第一だと思います。これを広げていってそしてクラブ同士、いわゆる地区同士の親睦と、そうなったときに先ほどからパストガバナーその他申されましたようなひとつのロータリーとしての大きな事業も考えられるということだと思います。

特に新入会員の対策としましてはまずこの点に十分にロータリー情報において勉強され、知識を身につけられて入会されたと思いますが、今ひとつ炉辺談話、その他例会、委員会によって事細かな親睦の実を上げるのが、それがどういうふうな形でまた奉仕になってきたかということ、これを徹底的に話していただきなければ、どうも奉仕ということが先行して考えられているような気がしてなりません。そういうことで時にはひとつ原点に返って勉強し直してみたいと、そう私は思います。以上でございます。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。それではただいま

の御発言がちょうど8分20秒ほどございました。

次に会員増強、クラブの取り組み方について佐賀北クラブの野口十四朗君君からお願ひします。

**パネリスト 野口十四朗君**

野口でございます。

今野田ガバナーノミニーの話を聞いてまして、新会員のその新加入がなかなか厳しいもんだということを非常に実感しているものでございますが、私に与えられた会員増強の取り組み方について述べて、皆さん方の御批判なり、また問題提起しまして、お答えを皆さん方から引き出してもらいたいと思います。

私はあのよく仕事柄ビジターとして県外のクラブに出席するわけなんですけど、その折、よく皆さんと話します折に、ロータリーは人間性の奥深いところを極めて出てきた思想と実践です。ですから数学のようにだれが考えても一つの答えしか出でこないということではないということです。ロータリーの奥の深さ、そこが魅力でもあり不可解と言われるところとも思えます。ということをよく耳にするわけです。しかし、内輪同士での話だったらそれでもいいと思いますが、外に向かってはインター・アクトなり、ローター・アクトを提唱しているロータリーの奉仕とロータリーの奉仕を普及させようとするからはわからないではすまされないということは十分わかってはおります。やはりロータリアン自身がロータリーを我ものにしなければならないと思います。しかし、我ものにすることは、ロータリーの人生哲学、即ち人間の生き方の方向づけをする。深い理想によって裏付けられたものであるだけにすべてのロータリアンがロータリーを把握できるということで、ロータリーを把握できるということはできませんので、理解の度合に応じて自分なりのロータリーを持っていこうと思え。それを今後のロータリー会員の増強の中に採り入れて、まだ会員となられていない方々と話し合っていくべきじゃないかと、私自身思つておるわけでございま

す。

また、十人十色、顔が違うようにロータリーの会員数だけロータリーの把握の段階があつてもいいことだと私は思っております。わかつていることだけ実践しなさいということですので、まず、自分なりにわかることが先決でもあると思っております。

これらのこといろいろ考えてみると、ロータリーの理解はロータリアン各自に任せられているわけでございますので、ロータリアンが勉強しなければロータリーは低いレベルのものになってしまふこともわかつております。しかし、私自身がロータリーを勉強しようとするにも初めに手続要覧を1冊与えられただけで、それが辞典のようなもので解説しにくい要覧に思えますので、何かテキストみたいなものがあれば勧誘しやすいのではないかと私は思っております。

また、最近は企業間同士の激化で現代都市形成の過度期にも当たっております。物質的利便のゆえに人口が集中し、物質的利益に支えられているゆえに自己中心となって他人との連帯感が薄くなっているのが現状です。人の心の荒廃と自由競争の原理の裏側で職業人同士の敵対感、不信感が高まりつつあって、渦巻いているというのが何だかロータリーの創立時に似ているような気もいたします。

資本主義の自由競争の原理から派生する企業間競争排除のための1業種1会員の制度というロータリーの原則がいまこそ強く打ち出されてよい時期じゃないかと考えております。ロータリーの思想のなかに会員の業務上の利益を振興する社交クラブに伴う親睦、そのほか望ましい諸点を振興するなどがありますので、都市化された現代ではなかなか厳しいと思いますが、我々自身が精神的相互扶助で、お互いの仕事の悩みをもちよるということも何だかこのごろ小都市でも少なくなってきたので、ここにおいてロータリーが会員を増強して発展拡大するよい時期じゃないかと考え、会員増強に取り組めばと私は考えております。以上で私の意見を終

わります。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。要点をと申し上げたので非常に時間が余っておりますけれども、会場の皆さんと活潑に討議をしたいという意思の表れであろうというふうに考えております。続けさせていただきます。

次は地域に密着する奉仕への思想ということで、まず(a)社会奉仕の立場から、武雄クラブの北川安洋君にお願いいたします。

**パネリスト 北川安洋君**

北川でございます。先ほど野田ガバナーのミニーの高邁なる新年度方針を聞きまして、ちょっと私の考えていることは少し恥ずかしいような気がするんですけど、非常にあのクラブとしては、大きいところは、小さいところ、あるいは地方の特殊性、その地方の経済性その他で変わってくると思います。そういうときに、大きなクラブ、いわば大企業、我々の武雄は小企業、あるいは零細企業かと思います。ですからあのとおりの高邁な理想に基づいた事業計画はどうてい我々にはできないという感じがします。実行の伴わない理想は思想のない行動と同じく無益、有害だということが書いてありました。私そうだと思います。

私のクラブに入会しましてから12年になりますけれども、初めて社会奉仕の担当になりました。大体があまり熱心な方でございませんから、社会奉仕とはどんなもんだろうかと思いまして、10年くらい前のやつまで事業計画、社会奉仕の事業計画を眺めてみました。薄々は知つてましたけど、2つの行事が10年間綿々と続いているわけでございます。その前も多分そうだったんじゃないかと思います。愛の献血運動と社会福祉協議会への寄付ですか、この2つでその中に二、三の、10年のうち二、三の委員長は公園の清掃とか、その他やっておられますけれども、2大、その武雄でやっている行事ではその2つでございます。

10年一昔という時代でございます。時代にマッチした奉仕じゃないと余り役立たないんじゃ

ないかと思います。そこいらにどうしてこの私が所属しているクラブが発展性がなかったのか。これは私自身にも非常に責任がございまして、クラブの中堅としてやらなかつた。あるいはやれなかつたということに対して大いに反省しているわけでございます。我々地方のロータリアンとしては常に地方密着の生活をしているわけでございます。自分の時間が自分の裁量によってつくれるという人はほとんどはロータリアンになっているわけでございますが、こういう人は地域社会においてあらゆる、職業に関係したことも含めましていろんな役をさせられているわけです。会長職、あるいは役員、とにかく私の今日のためにクラブの会員の皆さんに聞いてみました。すると大体1人平均、自分の職業に関係ない社会奉仕というのを平均5つ持っています。会長とか、理事とか、あるいは役員とか、そしてそれに費やす日数は平均で60日でございます。その60日は朝8時から5時までとか、そういう長時間じゃないんですけど、とにかく出かけるのが60日が平均でございます。そしてそれに費やす費用が平均で年間20万でございます。これだけの仕事をやっていれば本当に自分自身の職業奉仕ができるんじゃないんじゃないかという感じがします。

我々ロータリアンは、やはり職業奉仕が最も特徴的なことでございますから、これをおろそかにはできない。これ以上の仕事はできないんじゃないかなろうかというくらいみんなやらされているわけでございます。

そして、地方には、いわゆるいろいろなボランティア団体がございます。それは単一の団体が多ございますから、その仕事に対しては猛烈な情熱と労力を費やしております。我々ロータリーがおざなりにやっている領域とは全く違うわけでございます。彼らは真剣でございます。汗を流して本当に真剣です。その中に我々みたいにそこに仕事を組んだから、あるいはロータリーにおけるからやらなきゃいけないというふうな取り組み方では、それをやることによって社会的な評価はマイナスになることが多いと思

います。ですから、地域に密着した社会奉仕というのをやはりその地域地域、小都市は小都市なりの考え方で進めないと、とても皆様から評価を受けないと思います。そして、ロータリーは昼飯を食って歌を歌うのかという評価はますます強くなっていくと思います。

そういうことから我々が今後このロータリーの奉仕の理想をどうその地域社会に植え込んでいくかということで、我々の地方としてはやはりそういう既にある団体と協力してやっていくのが最も効果のある方法じゃないかという感じがします。小さな田舎町で2つも3つも同じ目的の団体があつてもしょうがないと思うわけでございます。そして、さっき申しましたように我々は非常に多くのほかの仕事をやっております。そういうところでそれに加えてロータリーの活動を精一杯やれと言われても、これは手抜きせざるを得ないと思います。

ちなみに会員の中のA君の仕事以外の何をやっているか、ちょっと紹介してみます。交通安全協会役員、防犯協会役員、観光協会役員、交通安全協会役員、観光協会役員、これは違うところの観光協会役員、商工会議所議員でございます。これに費やす費用は60日、そして年間は60万ということ。それからB君でございますが、その内容ですが、武雄少年少女発明クラブ会長、星稜高校会長、卓球協会会長、走ろう会会長、プラスチック工業会会长、婦人少年補導何とかですな、それから球栄会の会長とか、水泳協会の副会長、商工会議所議員、PTA会長、そんなふうにやってそれに費やす日数は100日、それに80万くらい。

こういうことをやはりこのロータリーと共に、ロータリーの奉仕の理想と共にそこの中に生かしていくべきいいんじゃないかという感じがするわけでございます。いわゆる奉仕の根本的なこと、温かい心、思いやり、助け合い、この気配りを今一度我々ロータリアン同士で内部でもっともっと深刻に突き詰め、どうしたらロータリーの奉仕の理想が地域住民の方々に、あるいはそういう奉仕団体の方々にわかってもらえるか

ということと一緒にやはり研究していく必要があるんじゃないかなという感じがします。

ですから、結論としましてはやはりロータリー1人1人がもっとやはりロータリアンの奉仕の理想、これはすべての部門に言えるんですけれども、それをもっと突き詰めて考えることが先決じゃないかという感じがします。

それでそのやる前にはやはりもっと検討する時間と研究する時間を我々は持つべきじゃないかということで、ただ、押し寄せの、前回も前々期も、その前も期もずっと同じことをやっておけば非常に仕事が楽に済むけど、それじゃやっぱりいけないんじゃないかなというふうなことを反省と共に考えておる次第でございます。終わります。

#### リーダー 井田圓之君

ありがとうございました。約8分でございました。続いて地域に密着する奉仕への思想の(b)職業奉仕の立場から佐世保クラブの松尾弘司君にお願いします。

#### パネリスト 松尾弘司君

松尾でございます。やはり私も先ほどガバナーが新年度に詳細に感銘の深い方針を打ち出されました、その中に職業奉仕が詳しく言われました。私はあえてここで申し上げる必要ないかもわかりませんが、私は私なりに考えてまいりましたので、それを申し上げたいと思います。

職業奉仕とか、職業奉仕委員会と申しますと、ロータリーの重要なものでございまして、私自身恥ずかしながらもう入会して25年になります。その間いろいろ考えてみますし、また各委員会にも関係してまいりましたが、職業奉仕というのが私は何か一番身近に感じます。しかし、何か一番難しいようにも感じられます。それで終身これから一生離れられないものではないかとも考えます。

そこで職業、即ち私の仕事でございますが、仕事と果たして職業奉仕と一緒にものであろうかというような疑問もわいてきます。ただ、仕事をしていることが果たして職業奉仕だらうか。こういうことをつくづく考えるわけでございます。

ロータリー的に考えてみると、私には職業があったからこのロータリーに入会させていただいたと、こういうことを考えますと、全然私にその職業がなかったとしたらどういだめだと思います。ロータリーに入ることもできなかつたと思いますが、その自分の職業を尊重してそれを誇りに思って、それをなお一層立派なものにしていく義務がそこにあると考えられます。ロータリーの中に雇い主、従業員の問題がございますが、私はその従業員、他の人々にもそれを尊重をし、そしてそれを立派にしていくということを求めていくことは当然のことだと思われます。

皆さんもロータリーの綱領にもう十分ご存じだと思いますが、職業を通じてその品位と道徳を高めながら社会に奉仕する。立派なことが定義されているように感じますが、今日職業奉仕の資質というものが急速に変化してきているようにも思われるわけでございます。

例えばあらゆる情報があり余って洪水のように情報が来ます。また、生活様式も多様化すると共に生活態度、そういうものが変わってきて、特に若い人たちにはただ他人を批判するというようなことが常識化してくるような今日であるよりも思えます。特に日本は今日まで発展途上国と同じようにただひたすらに、歌でございます上を向いて歩こうというようなことで発展してまいりましたが、いろいろな分野で特に国際的に急速な変化があることは皆さんも御承知のとおりでございます。ドル安とか、円高とか、非常に経済的に落ち込みという言葉は私はちょっと語弊があるかもわかりませんが、いろんな面で落ち込む部門も非常に多いのではないかと思いますので、これはひとつ真剣に考えているわけでございます。またいかなければならぬようなものがひしひしと感じられるようなことでございます。

これは発表の段階ではないかもわかりませんが、現にS工業では1000人近い工員を辞めさせなければいけないというような、本当に悲しむべき、そして我々は何ともあげられない、こ

のむなしいものがある今日でございます。

反面職業分類ではどんどん増加してくるでしょう。また仕事自体に厚みも、また重さもなくなつて軽く、薄く、そして小さいというようなことが、マイクメーカー段階でも、またホールセーラー、卸問屋でも、我々ディテーラー、即ち小売業でも、一品多量というようなことがなくなつて、あらゆる品種が多様化していく。販売方法においてもやれ通信販売だ、無店舗販売だというような行為が非常に多いわけでございます。果たしてこれは職業奉仕とどう結び付けていいものか私にはまだよくわかりません。

ロータリーの示す4つの基本的な委員会の中に雇い主、従業員関係ほか人間関係が非常に重要な要素になっていることは皆さん御承知のとおりでございます。しかし、この中にもいろんな変化が出ております。我々を含めまして高齢者の割合が非常に多くなり、若い労働者の中にはロボットが入ってくるようなまた、女性がどんどんと職場に進出して、家庭でも給料が2人分要るような時代になってきております。我々と同じような実業人も、そして専門職の人たちもますます増えることは確実でございましょう。しかし、反面小売業、即ちディテーラーはどのようにしていくかということをここで考えてみたいと思うわけです。

説によりますと、今世紀末にはこの小売業が半減するであろうと言われています。ヨーロッパの先進国ではもうどんどん減りだしまして、2、3年後には45ないし50%は確実に小売業は減少するであろうということでございます。日本でも個々の店舗、小さいと言えば語弊があるかもわかりませんが、恐らく近年30%は変わっていくであろうということでございます。

勤労と節約以外に幸福になる道はないと、こういう言葉がございます。会場のロータリアンの皆さんはよく考えてみると、戦後自分で苦労を重ねながら自分の職業の道を開かれてこられたと思います。また、祖先から受け継いでこられてそれを一生懸命、ただひたすらに成功への道を上がってこられた方ばかりだと思います。

ポール・ハリスはロータリーも時代と共に変わらねばならないと言っております。我々もなお今後一層難しく、休むことなく、努力し続けなければならぬことだとは思いますが、20世紀、いや15年後には30%の人々が都会に集中するであろう。また21世紀にはなんと70%の人が都会に集中するであろうと、こう言われて、私達はこの西海の果てといいますか、九州の果てといいますか、そこにある我々は肌寒い思いがするものでございます。

そこでロータリアンの我々は職業奉仕を通じてひとつ大事なことをしていくことにしなければならないのではないかと私は考えます。若い人をいかに育てていくか、これを考えていかなければならないと思います。乾燥化していくこの町を何とか維持していくのは若い人です。それでその残った人を、若い人々が人生のスタート台に立ったときに希望と不安でおどおどして、早く一人前になろうと努力する時期ほど人生で苦しいときはないとも言われます。我々の後継者を育てるということだけでなく、この過疎化する日本の果ての地をこれから守ってくれるであろうという人材の育成には今がチャンスと考えなければいけないんではないかと思うわけでございます。

これは私ごとですが、数年前から私は仕事上毎年私は何回か海外に参ります。東南アジアに仕入れに参りました。そのときに何回かここにおられます岩永パストガバナーとお会いしました。あるときはここから一緒に飛行機に乗ってまいりました。ホテルも一緒に朝食をとりました。毎日同じことを繰り返す。ところが朝食が終わると、岩永パストガバナーは難民キャンプに行かれます。私は個人的に仕入れに参ります。これが毎日のように続いて、ふと私は考えました。これでいいんだろうかという気がしました。帰りしなにうちの若い社員にロータリーということをよく勉強してごらんということで飛行機の中で話し合いました。いまその若い社員は一生懸命やってくれております。

私はここで自己を見せなければいけないんではないか。ロータリーのロータリアンがやっている仕事を、立派な仕事だということを見せなければいけないんではないかとつくづく考えたわけでございます。

幸いにして私達ロータリアンは考え方によりますと、ロータリーというのは我々心のオアシスだと思います。そういうオアシスを立派にするためには若い人たちをこれからうんと育てていく、人材育成というものは待ってはならないと、待つものではないし、育てるものだということを我々はここでよく考えながら、ロータリーにはロータークト、インターラクトというものがたくさんございます。それで各地区ごとに、いや地区と各分区と、それでクラブが、また個人が徹底して今度は若い人たちをいかにして育てるかということを考える。それで職業的に若い人たちの就職もだんだん難しくなっていくでしょう。ここでの的確なあらゆる職業情報を若い人にサービスして過ちのない若い人たちを育てていくというのが私は職業奉仕ではないかとつくづくこのごろは考えるわけでございます。会場の皆さんいかがでしょうか。終わります。

#### リーダー 井田圓之君

ありがとうございました。ただいまの御発言大変感銘の深い発言でございましたが、今のが約11分半くらいかかりました。

それではここでカウンセラーの皆様方に3分ずつ御発言をお願いします。

まず北島パストガバナーからお願いをいたします。

#### アドバイサー 北島常一君

北島でございます。3分ずつテーマ2つということでおよろしうございましょうか。

#### リーダー 井田圓之君

なるべく縮めてください。

#### アドバイサー 北島常一君

1、2合わせていただいたということで話してみたいと思います。

1、2合わせますと、一言で言うとクラブサービス関係ではなかろうかと思います。そこで

ロータリーには綱領というのがございますけれども、綱領の中にクラブサービスは第1にしか出てきません。奉仕の機会として知り合いを広めること。ということになっております。後2が職業奉仕で3が社会奉仕その他で、4が国際奉仕ということになりますので、クラブ奉仕ということになれば奉仕の機会として知り合いを広めることと書いてあるだけでございます。

ところが、クラブサービス部門には皆さんのが御承知のようにたくさんの委員会がございます。これはどういうことか言いますと、ロータリーは自分たちのことは自分でやろうというところから出ているように私は思っております。

知り合いを広めることということは、まず親睦でございましょうけれども、親睦のためには出席しないといけませんし、出席する前には職業分類によって入会しないといかんというふうにずっとそのロータリーのクラブサービス関係の委員会はそれぞれ深い関連を持っているわけでございます。その関連を結びつけておしまいには、さっきガバナーのミニーも言われましたように、なるべく新しい人にロータリーを分けてやろうということで会員増強につながってくるかと思います。

それで新しい会員もいらっしゃるようにも思いますので、職業、クラブ奉仕の関連についてちょっとばかり申し上げてみたいと思います。

まず、知り合いを広めることですから、親睦活動は非常に大切でございます、出席しないことには親睦できませんし、会員がいないことは親睦はできないと、それで会員をつくるのにまず職業分類を考えたというのはロータリー独自の発明でございます。職業分類の各々違う職業から会員を求めて、しかもそれが仲よくしようじゃないかというような考え方でございしまして、そのために実は企業秘密にわたるようなことでもお互いに相談でき、話しができるというふうに思うわけでございます。

職業分類がありますと、その職業分類を基礎として会員選考ということになるわけでございますが、わたしガバナー時代に回りましたとき

に職業分類をものすごくたくさんつくっていらっしゃるところがございます。会員は40名しかいないのに、職業分類は130くらいあったクラブもございます。そこちょっと間違つておるよう思います。職業分類はたくさん見つけられるのは結構でございますが、会員の得られそうな職業分類ということにして、もう一遍整理なさつたら、会員が得られやすいんじゃないかというふうに考えております。その職業分類がしっかりできますと、地域に合った職業分類がしっかりできますと、会員選考もうまくいきましたし、したがって会員増強もうまくいくというふうに思います。

それから、ロータリーではお互いに教育するといいますから、そっちの方が非常に発達しております。クラブ会報も報告のほかに教育の面がございますし、雑誌というロータリアン誌だと、ロータリーの友というのもお知らせと共に教育面がございます。それからロータリー情報となると、もう昔は教育委員会というふうに言ったほどで、教育が主な任務でございました。ロータリー情報を非常によくやったところが結局会員もふえ、親睦もできるというふうに思います。

広報というのは、今度外部に向かって広報するわけでございます。外部に対してのPRがロータリアンは非常にへただと言われております。だからひとつせひそういうふうな方向にも向けていただきたいなと思うわけでございます。

いつも毎年毎年会員増強、または拡大ということをRI会長も言いますし、RI会長から聞いてきたガバナーも言うわけでございますが、それは新しい人、ロータリーを知らない人にロータリーよのよきを分かち与えようということをございますけれども、各クラブで増やすということは意外と困難でございます。我が地区の実績を見てみましても就任したときから何10名が増えたなと思っていますと、6月30日には私のときには71名か、増えとったんでございますが、7月1日の数字見ると、また20名減つておると、こういう状況でございまして、今までの地区内

の増強具合を見ますと、結局のところ私のときに白石クラブ、それから逸見さんのときに佐世保北クラブ、岩永さんのときに長崎南、諫早西、長崎西ですか、長崎西、諫早西、多久と、それから井田さんの年度になって佐賀南、もう一つもうすぐ神崎というができる予定でございますが、クラブの増えるたびにしか本当の実質は増えていないというふうに思います。したがいまして、クラブでノミニーは3名ずつ増やせと言われましたけれども、実績から見ると、1クラブ1名ずつも増えていないくらいの計算になります。新しいクラブの分はころと増えておると、そういうことになりますので、やはり拡大にも努力していただきたいなと思います。

なお、念のために申しあげますが、特別代表というのは、今任命されておる方は規定の上では6月末で終わります。だから新しい年度になると、新しいガバナーが継続してもいいんですけれども、改めて特別代表を任命する必要がございます。その点はひょっとすると任命されるかもしれません、よろしくお願ひしたいと思います。以上、非常に簡単でございましたが、クラブ奉仕全般をまとめてみました。

#### リーダー 井田圓之君

どうもありがとうございました。簡単とおっしゃいますけれども、非常に要點をつかまえたいい御発言でございました。

続きまして逸見パストガバナーにお願いいたします。

#### アドバイサー 逸見嘉彦君

私は、あの今から3分と言いますと、6時ちょっと過ぎくらいまでと思いますが、私はロータリーというのは奉仕する団体ではないんで、奉仕を志す人の集りなんですね。奉仕を志す人というのは人生で同じような価値観、何か共通する人生観を持っている人が私は集まっている団体がロータリーだと思うんです。それはどういうことかというとですね。どなたも人生というのはやっぱり豊かで夢のある、そういう人生を歩むことが大事もあるし、また、そういうことを希望しておられると思うんですね。豊か

で夢のある人生を歩むためには、まず財力がなくちゃいけませんね。お金を持ってなくちゃいけない。しかし、このお金を持っているだけではそういう豊かで夢のある人生は歩めないと思うんです。健康でなくちゃいけませんね。次に。しかし、この健康であって長生きしたからといって必ずしも、金持ちで長生きしたからいい人生である、やっぱり人生短くたって質の濃い濃縮された人生というのも、またこれすばらしいんじゃないかな。その3つ目に何かというと、やっぱり人格、識見、こういうものが大事だと思うんです。お金があって、健康で、人格、識見があれば私は非常に豊かで夢の多い人生を歩けると思うんです。

で、やっぱりその人格、識見というのは、いつも自己啓蒙と言いますか、一生やはり人間は勉強していかなくちゃいけない。人格的に成長していくかなくちゃいけない。そうして自分の哲学と言いますか、人生感というのができてくるんです。

で、これが私はやっぱりロータリーの非常に大きな肥やしをこのロータリーがそれをくれると思うんですね。それで自分が少なくともその地域で夢のあるいい人生を歩める人間になれば、勢い自分を育ててくれた社会、地域社会に対して何か御恩返しをしたい。何か奉仕をしたい。他に対する愛情というものが自然に私は出てくると思います。それがロータリーの社会奉仕だと思うんですね。「天は人の上に人をつくらず」という言葉があります。こういう人生感をもつて奉仕をする。リベラリストなんですね。リベラルでなくなっちゃいけなんです。

ところが、最近、さっきあの野田ガバナー／ミニーがいみじくも言わされました。ガバナーというのはクラブを支配することはできないんだ、こうせろということはできないだというのは同じですね。RIというのはやっぱりロータリーにおいては支配しちゃいけないんですね。ポール・ハリスがつくったころは本当にやっぱりクラブ独自のユニークなあれをして、RIというのは皆さんのお世話をします。情報を提供するのが

RIだったんですね。ところがRIというのはこのごろどうしたことか、非常に支配が強くなって、私は本当に国連の民間版じゃないかと思うんですね。

で、いろいろこれ以上言うと、またいろいろガバナーノミニーを苦境に陥れますので言いませんが、とにかくそういうことで我々は地域にじゃどういうふうに活動するかというと、私はあのやっぱり知的奉仕というか、アイデアを出してあげると、地域に対してですね、そしてそれに自分の職業的な技術とか、金銭とか、また自分の抱えておる従業員に手伝ってもらっているんです。そういうものは後でついていくわけですね。

で、あのいろいろ協議会をやったり公園作りをしたり、植樹したり、いろいろあるでしょうけれども、そのアイデアで地域社会に奉仕をしたら、それを誘い水にして、いつまでもやらなくてもいいと思うんですね。ロータリーがまずそういう誘い水をポンプに入れてあげる。そして、水が出るようにならたら地域の何かにそれをお任せして側面から支えてあげて、また次のアイデアにいくと、そういうふうな私は地域社会と密着した社会奉仕をすべきだなあというふうに思っております。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。大変肝要なポイントを御指摘になりました。

**岩永パストガバナー** お願いします。

**アドバイザー 岩永光治君**

3分間で何かを言わなきゃならない。大変難かしゅうございます。

先ほどから野田ガバナー／ミニーが詳しく職業奉仕のことについて勉強されたことを今年度の方針の中でお話しになりましたし、また、松尾パネリストからもいいお話を聞かせていただきましたので、あえて私が言ることはもうほとんどのようございまして、先ほどからあの北島パストガバナーがクラブで奉仕はこのロータリーの綱領の第一項でたった奉仕の機会として知り合いを広めることと書いてあるだけで

ございますが、私の方のこの職業奉仕は見てみますと5行あるんですね。ほかは1行か2行か3行でしょう。だから綱領の第2を御覧になるとわかりますが、第2の実業、及び専門職業の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自は職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめるここと。これだけ聞いただけで何かわけのわからんようになるわけでございまして、だからロータリーは職業奉仕というけれども、なにかしらん職業奉仕はわかったようでわからんということは、この綱領がその大体ほかに比べまして非常に長うございます。そういうようなことでございまして、先ほどノミニーがおっしゃっていましたが、ロータリーをそのシンプルにしようじゃないかという、私年来思ってたことをおっしゃって、大変うれしかったんでございます。

また、松尾パネリストも職業奉仕は身近なものなんだというふうなことをおっしゃいました。私もそうだと思います。いろいろこの難しく解釈をしてしまっているのがどうも職業奉仕のような気がしてならないんでございまして、どうぞ職業奉仕をいろいろなたとえでおっしゃっておりますが、職業奉仕はロータリーのメインストリートであるとか、いろいろロータリーの根本であるとか、いろいろおっしゃるわけですけれども、そう難しくお考えならなくていいんじやなかろうかと、いろいろ今日も、私たちの長崎クラブでこの間をつくりましたこの4つのテストのセミナーというのが各クラブに1冊ずつお配りしたんでございますが、こんなものもございますけれども、とにかく職業奉仕は自分の職業を皆持っている。その職業でもって我々はロータリアンになったんでございますから、ロータリーを本当に身近にもっと考えていただいて、そして毎日毎日我々がやっております職業を本当に人のため世のためになるような気持ちで、いわゆるロータリーの精神を自分の職業、自分の職場に持ち込むことだということでございます。

あるどこかのパストガバナーがおっしゃついましたが、ロータリーに道徳を持ち込むんだと、そういう考え方であれば立派な職業奉仕ができるんだと、至極簡単に言い切られたパストガバナーがおられましたが、私もそのように至極簡単に考えていただいているんじゃなかろうかなと思うわけでございます。

そういうふうなことでございまして、そういう言っておりましたら、後1分くらいありますか。

**リーダー 井田圓之君**

もう過ぎております。

**アドバイザー 岩永光治君**

それじゃもう終わりました。どうもありがとうございました。

**リーダー 井田圓之君**

どうもありがとうございました。

一通り本当にいい指摘がございました。いかがでしょうか。パネリストの皆様方、あれを言い損なったなというのがございましたら一言ずつ補足をしていただきたい。服巻さんからお始めください。

**パネリスト 服巻勝也君**

あれを言い残したわけじゃございませんけれども、時間を切られたものですから、ちょっと端折ったんですが、あのみんなで集まって、時に集まってただ飯を食う。いわゆる親睦、これが当然十分に行なわれたときには先ほどからパストガバナーが申されましたように、世のため人のために何かしようではないかという状態が起こってきて、それで奉仕だけそんならしどつたらいいかということではないというのがロータリーだと思います。そういうことで、まずはあの親睦だけしどつたらロータリーはいいかということではないと、それは先ほどから私の話す場面じゃございませんので、割愛しましたが、奉仕につながっていくというふうに思っております。ただ、先ほどは親睦のことだけ言いましたので、ちょっと付け加えておきます。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。

**パネリスト 野口十四朗君**

特にございません。

**リーダー 井田圓之君**

それでは北川さん

**パネリスト 北川安洋君**

あの私その思想とか、理想とかいう前の段階が最も不足しているんじゃないかなという気が、さつきもそのとおり思想と離れたことを申しましたけれども、やはり現実的に踏まえた発展というのを考えにやいけないということで、大体企業も30年すればつぶれると言われてますけど、私が所属しているクラブも23年くらいになるんですけど、やはりそこで若い人とチャーターメンバーとの間の行き違いですか、考え方の違いが出てきまして、やはり創立当時とは時代の変化、社会の変化、経済の変化、思想の変化とか、あらゆる多様化というものに対するやはり的確な対応が必要じゃないかという感じがするわけです。それがやはり奉仕につながっていくと思うんですけども、チャーターメンバーがやはり非常に経験されてきて、それを若い人、新しい会員に教育するという時代があったんですけど、私なんかがちょうど入会した当時、若さにあふれてましたから、しげめんどくさいことを言うならやめるぞとか、勉強せにゃいけんならやめるぞとかいう脅迫的なことも時々言ったものですから、だんだんチャーターメンバーの方もしゃべられなくなってきて、我々が入ったときはファイア・サイド・ミーティングなんかでロータリーのことについて話したんですけども、私が若い社員に話したことはほとんどないことを反省しているわけです。

そういうことからやはり奉仕なるものを新しい、特に若い会員は興味を示さないもんですから、そこの間に問題があるのではないかという気がするわけです。

そして、また、やはり人はその人の後ろ姿を見て育つと言いますけれども、やはり先輩ロータリアンがやはり不審な行動とか、言行不一致とか、そういうことによって憧れてきた若い会員はやはりそこでショックを受けるわけでござ

りますから、やはりそこいらの報道とか、教育とかいうことをもう一遍見直さなきいかんという感じが非常にしているわけです。やはり勉強することは私生来嫌いでございまして、今の若い人たちも嫌いな人が多いようでございますから、それをやはり嫌いなやつにはどうして勉強の場に引きずり込むかというテクニックも必要じゃないかという感じがするんです。

そして、もう1つ会員増強とよく言われますけれども、会員増強のためにはやはり迎合的な言動に我々はなりやすいということです。ですから、いたずらに会員の数を増やすということは会員の増員率の競争みたいなことをやらせますと、やはりそこいらで非常にこの無理して入れるといいますか、迎合的に入れる人、そしたらやはり言いにくい面も出てくるということもあるんじゃないかなと思います。それでやはり会員の拡大というのが非常に質の低下につながっているんじゃないかなということを感じるわけです。われわれ企業でもやはりいたずらに規模拡大じゃなく、利益を確保せよという言葉もございますから、ひとつそこのあわせてガバナーが考えていただきたいものだという感じがします。終わります。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。

では松尾さん。

**パネリスト 松尾弘司君**

先ほどちょっと触れましたが、何か職業奉仕をきちんとやっていくことにおいて、それが社会奉仕につながるという感じがいたします。特に先ほどの岩永パストガバナーの場合は、私は自分の職業を生かしながらそれが社会奉仕につながり、それが大きな国際奉仕につながっていくような気がいたしましたし、また、現実にそうでなかつたかと思います。

それからもう一つは、もう私のクラブの先輩が、もうほとんどおられませんけれども、今現にもう90歳になる方でございますけれども、かくしゃくとされておられる方からいいことを教えていただきました。それはうちのクラブは水

曜日が例会日だと、あなたの仕事も水曜日を中心いて動いてごらん。クラブに来るのが苦にならないと。こういう教えてございました。だから仕事に、職業的なものはまずその例会日を中心いて考えて水曜日に大きな赤マルをして、その日に、うちのカレンダーも私の手帳も皆その水曜日に例会日に赤マルをしております。うちの家内にもそれを必ず言うようにして、先輩の言うことを教えを聞いていって、今でもそれを実施しているということでございます。よき先輩を得たことが私としては非常にうれしく感じるのでございます。以上でございます。

**リーダー 井田圓之君**

どうもありがとうございました。

いろいろ貴重な御意見をいただきました。そこでこれから残った30分間を会場とのいろいろな討議に充てたいと存じます。

どなたかこの壇上に並んでおる私どもに対して御指名のうえ御質問でもよろしいし、御自分の御意見でも結構でございます。どなたかお願ひしたいと思いますが……。

なかなか手を挙げて発言するということには勇気が要ります。しかし、それをあえてやることが次年度をどうもっていくかということではなかろうかと存じます。御発言がないようでしたら私が御指名を申し上げます。

それでは第1のテーマと第2のテーマは私は実質的には関係があると思うんです。今日のノミニーのお話しにもございましたように、会員増強というけれども、その実態を見てみると、今の増えておる状況というものの中で、どうしたら増えるか、新しい人も増えるがどんどん辞めていっておる。その中でせっかく張り切って勧められて入ってきた新しい会員の方は、皆さん何かを得たいと、何かをつかもうと、そして自分も何かをやろうと、こういう意欲で入ってこられるはずなんです。その方に失望を与えて、これじゃどうもというようなことで辞めていかれる方をなくしましょうということが、実はひっくり返せば増強にもつながりますよといふお話をしました。ですからこの新会員対策、そこ

のところをどううまくやるかということは会員増強の有力な一部分でもあるわけなんですね。そういう点、ひとつクラブ奉仕を担当される方、どのようにお考えになって、どうやつたらいいとお考えになるか。まず第1分区でひとつ、伊万里クラブ池田さん、おいでになりますか。よろしくお願ひします。

**伊万里クラブ 池田常晴君**

伊万里クラブの池田でございます。

親睦につきましてでございますから、今服巻さんからいろいろございまして、やっぱり例会に集まるということが、出席が一番大事なことだと言われますけれども、私もそれが一番大事なことでありながらも、人それぞれ性格が違いますし、そういうことから考えてみると、なかなかこの親睦というのは一朝一夕にできるもんじゃない。やっぱり長くつき合わなければならぬ。そういうことから考えると、どうしてもやっぱり例会だけにかかわらず、通常の炉辺会議とか、またいろいろ会員の自宅に行きました、それのお互いにコンパしながらいろいろ話し合う、こういうことも必要じゃないかと思います。そういうことによって親睦を高めていくことだというように私は考えております。やっぱり何といっても人のつき合いの濃度を深くするということをまず第1にやっていきたい。簡単に言うとそういうことじゃなかろうかと思います。難しいことはやめて、経済の話しあははの話、そういうふうなことじゃなくて、もう日常周囲にあらゆることを、起こった事項を、そういうことで話していくれば、それで親睦が深まって、それが自然と高度なものになっていくんじゃないかなと私自身は考えます。そういう意味でもって私はこの1年のクラブ奉仕の理事をやっていきたいと、かように考えます。

**アドバイザー 北島常一君**

確かに今の御意見のように炉辺会合等で人つき合いをよくするということが、まず基礎であろうと思いますが、さつきちょっと言い残したことがございますので、申し上げますが、私がねがね思っておることに、各ロータリークラブ

の会長さんはオーケストラのマスターであるというふうに考えております。それから今発言のあったようなクラブ奉仕の担当理事はその弦楽部門ですね。第1バイオリン、第2バイオリン、チェロ、その他の弓を弾いて鳴るところのまとめ役と、リーダーであろうかと思います。やはりクラブ担当の理事になられた方は、クラブ奉仕の中にさっき言いましたようにたくさんの部門がございますので、プログラムにも注意するし、職業分類にも注意をすると、ロータリー情報が足らんと思えばロータリー情報委員長の尻をたたくといったような、ひとつあの部分が弱いと思えばあげてやるというようなことを心掛けていただきたいなと思っております。

特にクラブ内の融和を保つためにはいい卓話、いいプログラムがぜひ必要だと思いますので、プログラム委員長の方はぜひ行き当たりばったりじゃなくて、少なくとも3カ月くらい先まではプログラムをぴしっとつくっておいていただきたいなと思います。

たしか佐世保南クラブでございましたか、私が公式訪問したときには1年先のプログラムまでできておりましたので、早く言うと1年分ができおりましたので、びっくりしたことがございます。ちょっとそれだけ申し添えておきます。

#### リーダー 井田圓之君

ありがとうございました。

親睦ということは本当に大事なことです。でのその中に本当に仲よくならんと、お互いにざっくばらんにものは言えないでけれども、その仲よいということをもう少し突っ込んで一緒に行動することの中から出てくるお互いの信頼感というものが、その仲よくなつた親睦というやつをもう一つ力強い、本当の意味の親睦にするんじやなかろうかというように思います。

ところで、この綱領に奉仕の理想を分かち与えるというのですが、これはよく言いますね、我々にはあんまり何と言いますか、なじみにくい言葉ですけれども、言わんとするところはわかるわけです。ところが、私が思うに、与えるということは自分の持っているものを分けるこ

とですからね、我々自身が何も持っていないと、分かち与えるものがないわけですよ。いかにして自らが分かち与えるべきものをつくりあげるかという自己研さんの場がクラブであるというふうにも考えられるわけでございますして、そこで、情報を提供してもらって、自分はどうしようと、それはなるほどそうだよと、私もそうしたいと思うと、そういう人の集まりがロータリークラブなんだと逸見パストガバナーはおっしゃいましたね。私もそう思います。私も公式訪問のとき、ずっと申し上げておりましたように、軍隊や一般の企業とも違うんだと、ロータリーというのは。だから命令一下どうせいこうせいということはないんだと、このような情勢ですよ、こういうことをしたらいいと思いますよ、ひとつやりましょうよと、そこまでなんですね。それを受け止めてよしやるぞと、本当にそうだと1人1人がそう思って、その方向がある方向へ向かっていく。これが大勢の力を集めた大変な力になっていく。そのあたりがやはりロータリーの奉仕の姿だろうというふうに私は考えております。

ところで、この地域に密着する奉仕の思想と、この中に社会奉仕の立場と、それから職業奉仕の立場という2つがございます。大変パネリストからも明快な御意見がありましたし、カウンセラーからも適切な御指摘がございましたけれども、この2つはやはり共通しておると私は思います。そして根本は職業奉仕だというふうに思うんですけども、本当にわかりにくうございますね。しかし、わかりにくいけれども、これは最も簡単だと私は思うんですよ。ただ、一生懸命自分の仕事をしたらいいということではないんだと、その仕事のやり方などだと、しかも、そもそも考えてみるとですね、人間がですね、本当に太古の昔から集落をつくって、いろいろとこの社会生活を営みだしてから職業というのが出てくる過程というものを見てみると、いみじくもそのボケーションというものが与えられた、神から与えられたといったような意味を持っているんですね。天与の職業というん

です。それはやはりそうだと思います。自分がただ生活をするだけのためということでなくて、そもそも職業がどうして興ってきたかということを考えてみると、当然みんながよくなるためにそれぞれが分担したということなんですね。で、分担したものが分業になって固まってきて、そいつが職業と言われるようになったということを考えればやっぱり私はこのロータリーが1業種から1人ということでもって構成されているというのはすばらしいことだというふうに考えますね。そして最初はお互いにいろいろと職業上助け合うというようなことであつたかもしれませんけれども、人間というのは本当に自分が一生懸命やってある程度この物質的な満足というものが出てきますと、必ず自分の心の問題を取り上げてくる。

それからまた、周囲の人というものを見回す余裕が出てまいりますし、一緒にどうよくなつていこうかというふうに考えてくるものなんですね。そこらのところに23の34という有名な決議、今度引っ込んだそうですけれども、に書いてある内容の意味があるんだと思うわけです。自らの欲望というものを達成するために一生懸命やりますけれども、そのことと心、それから社会というものをどう調和させるかというところに実はロータリアンのロータリアンたるゆえんがあるんだというようなことを理解しますと、やはり職業奉仕ということの意味がわかる。どんなふうに自分の職業をやっていくかということ、ただ一生懸命やるんじゃなくて、どうやるかと、しかもそれをどう引き上げていくか。それをどう広げるかと、従業員にどうそれをしっかり教えていくか。あるいは同業者の間でどういうふうにそのことを広げていくか。しかもその基準になるものは4つのテストというのを、自分の行動とか、言動とかの中でちょっと待てよと、あれを思い出してみて、自分が今からやろうとしていることはどうだと、そんなふうに考えてみる余裕を持つことが実は4つのテストを実行するということであるわけなんですね。必ずしもそのとおりにいかないケース

が多いんですね、最近のように大変な世の中になりますと。しかしながら、それでもなんとかそれを思い浮かべながら自らの行動を少しでもそれに近づけようという努力をするということが職業奉仕でありロータリアンたるゆえんではなかろうかというふうに私は今考えております。

そこで、会場の皆さんに御意見を伺います。第3分区大町クラブの竹下さん、いらっしゃいますか。いらっしゃいませんか。それでは有田クラブの深見さん、いらっしゃいますか。お願いします。

#### 有田クラブ 深海博君

私たちの若い世代は戦争という大きな事件がございまして、そして今日振り返ってみると、大体23歳で国のために亡くなっています。私ロータリークラブに入って非常によかったですとは、もしも亡くなつた彼らがあの世から来て、おまえは俺らより何年も長生きしておりながら一体何をやつたかと、国のために何をやつたかと、そういう質問を受けた場合に、恐らく返答に困つたであろうと、そういうふうに思います。

で、先ほど逸見パストガバナーは社会奉仕の立場からのお答えの中で私も非常に共鳴したわけでございますが、お金と健康と人格、識見、ただ私には健康だけしかございません。でも職業奉仕も一生懸命やって、そしてその金を得ると、そういうことで社会奉仕ができるし、そういうチャンスをロータリークラブに与えてもらって、非常に私は幸せであると、そういうふうに理解しております。今後とも恐らく自分としては健康に自信がありますし、自分の余力を職業を通じて社会に貢献したいと、そういうふうに思っております。逸見パストガバナーの御意見に全く私も賛成でございます。以上です。(拍手)

#### リーダー 井田圓之君

ありがとうございました。それではもう一方お願いしたいと思います。

第5分区の諫早北の西村さん、おいでになつてますか。

(「来ておりません」という者あり)

**リーダー 井田圓之君**

であれば島原クラブの梶原さんいらっしゃいますか。お願いします。

**島原クラブ 梶原邦英君**

あの私は島原クラブで現在職業奉仕を担当しております、次年度からクラブ奉仕にかわるわけでございますけれども、あの私はあの自分の仕事が医者で診療所を経営しておりますので、例えはここに出てくる場合でも1泊となりますと、入院患者を抱えておりますし、なかなか出ずらいわけですが、幸いあの同僚に同じ医者でロータリアンがおりますので、あとのこと頼んで出てきたわけでございます。そういう意味での職業奉仕というのは私たち医師にとっては患者をとにかく診ると、できるだけ患者に不安感を与えないようにするということが理想だと思うんですが、そういう意味で我々は当然医師会にも入っておりますし、救急医療でもいろんな面で24時間体制といいますか、そういうことでやっておりますので、職業奉仕ということはその精神は十分わかっているつもりでございます。

それからあのロータリークラブに入って医師という面からのみ、患者さん相手が多いもんですからいろいろと視野はどうしても狭くなりやすいということで、ロータリークラブに入っていろんな職業の人と親しくつき合ってみると、こういうこともあったのかと、いろいろ勉強させられることがあります、それがいろんな診療面にもいくらか生かされてきてると、そして自分にとって非常に今後のいろんな人間的な面においても非常にプラスになったということをひどく感謝しておる次第でございます。簡単ですが、こういうことでおわります。(拍手)

**リーダー 井田圓之君**

どうもありがとうございました。あと10分でございますので、ひとつあのどうしてもこれだけ言っておきたいという方がいらっしゃるんじゃないかと思うんですけどね、手を上げていただけますか。どうぞ、お名前とクラブ名をお

っしゃってください。

**島原クラブ 西尾善高君**

島原クラブでございます。私が意見を申し上げるんじゃなくて、大変貴重な時間でございますので、皆さん方のお話を聞いておりますと、結局親睦が非常に大事だということを皆さんにおっしゃっております。もちろんロータリーの奉仕は親睦イコード奉仕にあるという哲学であるそうでございますが、その哲学の解明が必要だということだそうでございすけれども、これを新入会員に親睦が奉仕につながっていくという事柄を簡単明瞭に説明する言葉を逸見パストガバナーに教えていただきたいと思います。以上でございます。

**リーダー 井田圓之君**

西尾さんでございますね、逸見パストガバナーお願いします。

**アドバイザー 逸見嘉彦君**

私はよくこういう人がおりますね、その人がいるだけで本当にこう楽しい、その場が楽しくなる。その人とお話をしていると、何かいつも1つか2つアドバイスといいますか、教えられることがあると、そういうふうな人というのはありますね。私はあのやっぱりロータリアン、よきロータリアンであり、自分の職業に非常に一生懸命職業人として自分の職業の質といいますか、そういうものを向上させていくこうとしている人、こういう人はやっぱりその人がいるだけで周りを楽しくし、その人と話していると、何かいつもアドバイス、教えられることがあると、そういう人が立派なロータリアンじゃないかと、そういう人はただいるだけで普通に話をしておられるだけで人のためにこう何かを与えている、奉仕していることになるので、そういう人になるのに私はやっぱり中年以降ロータリーというものは非常に大きな役割を果たしているんじゃないかな。先ほど同じ島原クラブのドクターの会員の方が自分は医者だけの世界を見とったけれども、ロータリーに入ってまた違う意味で非常に視野が広くなったと、本当にロータリーに対して人生の中で良かったと思っておるとおっし

やいましたが、私はまさにそのお言葉、心から出たように感じて、隣で岩永パストガバナーが1番最初に拍手をしておりましたが、終わったときに。私もそういうふうな医者の一人として拍手をしたいような気持ちでしたが、そういうことでお答えにかえさしていただきたいと思います。

**リーダー 井田圓之君**

北島パストガバナーも一言お願ひします。

**アドバイザー 北島常一君**

私ロータリーに入ったころ奉仕とはと言う例え話の中に、そのころは舗装をしてなくてですね、道に石が出ていると、それを穴掘って埋めるだけでも奉仕だということを聞かされたことがございますが、長年ロータリーに所属しております、いろいろのことをやらされてみて、そしていろいろのことを覚えさせられると、これを一生懸命やりますと、自然と奉仕ということが身についてくると思います。それを一言で言うとアイサーブになるかと思います。奉仕する、自分は奉仕する人だとわざわざ思わなくても自然と身についてくると、その辺までこぎつければいいなというのを私の理想にしております。

それで直接は非常にわからないので、私の場合はクラブの先輩の中に自分の手本とする人を3人ほど見つけまして、あの人のまねを及ばずながらしたいという気持ちでしたつもりでございますが、一言で言うと、ロータリーを身につけるということをやっていただきたいなと思います。

**リーダー 井田圓之君**

ありがとうございました。

あの大変すばらしい質問だったと思います。逸見さんのお答えもすばらしかったし、北島さんもすばらしかった。ここへお集りの皆さん方恐らく、ここで私などがどうだこうだと申し上げる必要もなく、よくおわかりになっていらっしゃる。問題はそれを新入会員の皆様方にどう受け止めてもらうかということに心を碎こうという気持ちになっていらっしゃるかどうかと、

ちょっと回りくどい言い方をしましたけれども、私はそこらにやっぱりあの原点とは何かというのは、要するに自分自身の心だと、そんなふうに思います。簡単に言いますと、で、それを突き詰めていくと、You are the keyというこの年度のテーマの意味を本当にそうだと受け止めて、I am the keyというふうに思って、それで自分の行動をすべて律していくと、本当にそう思うところから行動が出てくると、そういうことが行なわれているかどうかと、そうしますと、そこからやっぱりいろんな具体的な方法論というのは、それぞれのクラブにそれぞれの独特の事情がございます。そして皆さんそれに一生懸命におやりになっています。そのことはもう私は公式訪問で回ってみまして、本当によくわからせていただいた。すばらしい勉強になりました。本当に今ここで皆さんありがとうございますと申し上げたいくらいですけれども、それをさらにどう私が生かしていくかということは私にかかっている。皆様に本当にいい勉強をさせていただいたなと思うことがどれだけお返しできるのかまことに自信がございませんけれども、やはり一生懸命やらしていただこうと思っています。

次年度野田ノミニーは大変おとなしい口調でおっしゃいましたね。それが本当に皆様方の心に響いていて、そして我々も及ばずながらバックアップを申し上げて、そして各クラブ、これにもう一つ新しいクラブが加わります。つい先日13日の日に神埼クラブの創立総会をやりました。これが私が今年度に何とか、岩永直前ガバナーが御苦労なさって種をまかれたものを自分で育てて刈り取っていく、そのただ一つのものでございます。それを本当によかったですなあと思っておりますけれども、それをどう育てていくかなと、また今これが新しい悩みになりつつあります。皆様方もひとつそういうことを経験しながらお互いにざっくばらんにぶつけあって、そして、その中から何かをつかみながら、それがいつも毎週行なわれる例会であるわけな

んです。そこに出ることが本当に楽しくなるよう、そうすれば新人が失望してもう辞めるということは私はなくなると思いますね。

例会を中心にしてとおっしゃいました。すばらしいことですね。それを自分でもそうだということで決めてしまう。人にもそれを言う。みんながそれを認める。あの人はあの日あの時間は絶対だめだ。あれはロータリーだと。それが公然と通るぐらいになるまでやってますと、本当にこれはすばらしい結果になります。何とかしようじゃなくて、そこまで持っていくまではやはり意思の力でもっていかざるを得ません。自らの意思の力で、自らそういうふうにセットをしていくということでもってひとつ次の年度をお始めいただきたい。

ここでひとつ許されるかどうかわかりませんけれども、この年度のしめくくりを完全にやることも次年度のスタートをより確実にすることであるということを申し添えまして、本当に拙い司会でございました、申しわけありませんでしたけれども、ちょうど時間とあになりましたので、第1日目の討論を閉じさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

支局長賞、最優秀賞、優秀賞、奨励賞

## パネルディスカッション

### 第 2 部



1986年度 第274地区

地区協議会パネルディスカッション発言者表

	テ　ー　マ	リ　ー　ダ　ー	アドバイザー	パネリスト
第二部	① 高齢者への心づかいとロータリー	P.G. 逸見嘉彦 (佐世保南)	G. 井田圓之 (佐賀西)	橋田村俊 (大村)
	② 雑誌会報編集の取り組み方	〃	P.G. 岩永光治 (長崎)	益田耕作 (長崎)

リーダー 逸見嘉彦君

皆さん、おはようございます。ここから拝見しておりますと、さすがに福江は途中から帰るということが至難の技でございます。交通機関が封鎖されておりますので、昨日と大体同じような顔ぶれと言いますか、おそろいのようで、ひとつあの1時間よろしくお願ひいたします。

昨日、あのパネル・ディスカッションがあつて、井田ガバナーが決められたように今日もまた10分ずつパネリストの方にまず話していただいて、第一のテーマは高齢者への心遣いとロータリーということです。

これは、カドマン会長が世界的な傾向であるこの高齢者社会といいますか、そういうものの到来ということでR I に高齢者のための委員会というのを今度つくられまして、恐らく今年度からは社会奉仕の委員会の中にこのいわゆる高齢者に対してロータリーはどういう奉仕をすべきかということで、そういう動きが盛んになってくるのではないかと思いますが、今日はあの社会の高齢者、地域社会の高齢者に対してロータリーはどんなことができるだろうか、ということと一緒にロータリー内部の会員の方の中でもりにお年を召した会員の方に、どういうふうに我々心遣いをしたらいいだろうかというようなことを併せて二つのことに焦点を当てて進めたいきたいと思います。

大村クラブの橋田さん、ひとつよろしくお願ひいたします。

パネリスト 橋田村俊君

御紹介頂きました大村クラブの橋田でございます。私に与えられましたテーマは高齢者への心遣いとロータリーでございます。リーダー及びアドバイザーのよろしきアドバイスと、それからフロアの皆様方の御指導をお願いいたします。

近年高齢者問題が特に問題になっています。その問題点は主として平均寿命の延長、それと高齢者の数が多くなる。こうした社会現象に対する対策をどうすべきかということに絞られています。高齢者そのものについて、高齢者とは何ぞやという本質論には程遠いのであります。高齢者は何を求め、何を欲しているか、恐らく一般常識としては、高齢者は成年(成人の成)成年に年齢を加算した存在としか考えられないのでは。それはただ単にしわの数の問題や、白髪の問題ではなく、新生機能の低下によって、結局惰性だけを頼りとする生活態度に変質しつつあることであります。要するにそういう意味で成年の領域に一線を画するものが高齢者であるということでしょう。

今一つは、徳性の問題であります。一口にいえば、高齢者は完全な設備で優遇されようとも決して満足感を得るものではないということで

あります。

孔子は言っています。父母を飼育するだけのことならば犬や馬のような動物でもやれる。人間として動物と一緒にあっては決してならない。人間として父母、即ち高齢者に仕える場合は敬いの精神がなければならないと申しています。この敬いということは、三歩下って敬礼するということではない。目上の人に相対する場合の心の用意として、一步へりくだる心をもって対する。それでよいのであります。対等に物を食べたり、甚だしいのは弱者を見て侮る態度をとるなどのことは厳に謹むべきであります。それは人間の自然であって、特に礼儀作法というのではありません。

高齢者は高齢者としてあるプライドをもっています。自尊心と言ってもよいでしょう。この自尊心を傷つけないようにすることは、あながち高齢者だけではありません。夫と妻、あるいは子供と大人、労使の関係にあっても、いやしくも人と人の関係において守らねばならないモラルであります。

さて、東京東ロータリークラブの佐藤千寿氏はロータリーは人をつくるという論文の中で次のように述べています。「奉仕」というと時間や金に余裕のあるものがその余裕を割いて人に分かち与えるもの、あるいは余裕とまではいかなくとも、持っている時間と金を少しでも切り詰めてこれを他人に、また、社会に捧げることだと、単純に割り切って考えられるようあります。現実に、また、今日のロータリアンのやっている奉仕は一応そのような範疇に入ります。しかし、もっと徹底に掘り下げてみると、ロータリーの奉仕はそんなところにとどまらず、それよりは遙かに奥の深い、つまり人間が人間として生きるために不可欠の道なのであります。人が生きるという意義を深く考えますと、生き方それ自体の中に奉仕があることを発見します。結論的に申しますと、立派な生き方をすることは、それがそのまま奉仕であります。

1974年、75年のR I会長ウィリアム・ロビンス氏は日本を訪問したときに日本のパストガバ

ナーの会合で、諸君は慈美(慈しみと美しい)慈美的社会奉仕をいかほど実施したかをもって誇りとせず、奉仕をわきまえたいかほどのロータリアンを育てることができたかを誇りとすべきであろうと講演をしています。ウィリアム・ロビンス氏のターゲットはロータリーの精神を掘り起こせという文句であります。つまり、過度なる金品の寄付奨励に警告し、そして金銭の寄付のみが奉仕と誤信している傾向に反省を促したものと言われています。

京都のあるクラブの話であります。ある一日老人ホームの人たちを琵琶湖周遊の船に乗せて楽しんでもらったそうです。当日はロータリアン多数が参加してそれぞれの世話係を設けて高齢者の事故防止や、接待に万全を期したそうです。このプログラムは大変好評であって、報道関係でもロータリアンの美徳として大きく取り扱ったそうです。同時にロータリーの広報の役目も果たしてくれたということであります。

ところが、さらにさらに高齢者の人たちを喜ばした快挙があります。それは、クラブに8ミリ撮影の趣味をもった会員がいて、その人たちが琵琶湖周遊の模様を出発、船上、帰着と、腕によりをかけて撮影し、これを編集して一巻の映画に完成いたしました。数日後、そのホームで映写会が開かれました。ホームの人たちは船上の自分の笑顔やら、緊張した顔の大写しが次々に出てくる画面を見て童心そのものごとく喜び、踊るようなしぐさで、ものすごい歓声を上げて喜ばれたということであります。

クラブが負担した費用は、船賃と昼食代と交通費若干ということです。クラブ員総出の接待と映画撮影というアイデアがものをいって、この奉仕は大成功であったということであります。

金や物だけの寄付だけでは理想的奉仕とはならない。心のこもった奉仕でなければ眞のロータリーの奉仕とは言えないという事例であります。

1986年、メキシコで開催されました国連人口会議にユネスコが提出いたしました報告書のテーマは「老人の能力を適切に活用すれば社会に

とて思いがけない恩恵となるであろう」というものであります。この理念が具現されることを願うものであります。

1982年、国連主催の高齢者問題世界会議がウイーンで開催され、高齢者を社会の外に置くのではなく、年齢と無関係にそれぞれの能力に応じて社会の発展に寄与する貴重な戦力を見るべきである。21世紀になると、高齢者が多く、若者が少なくなるから、高齢者を除いては社会機構が円滑に動かないといった内容であります。

結論を申し上げますと、一体高齢者の幸せとは何であろうか。悠々自適の一語につきましょ。しかし、それは孤独の人生においてあなたがち得られることではありません。極めて平穀に家族にかしづかれ、敬いによる精神的滋養を十分に摂取して靈性を飢えくめず、そしてしゃくしゃくとして余生を楽しむことこそ、けだし老境にある人を幸福ならしめる必須条件であると思うのであります。以上。

#### リーダー 逸見嘉彦君

ありがとうございました。

それでは、あのちょっと今日はテーマが全く1と2では違うテーマですが、先にパネリストの方にお話をさせていただきたいと思いますので、2の方は雑誌、会報編集の取り組み方ということで、これはあの編集というのは、我々は会報を編集するので、雑誌は編集というのは我々がやっているわけじゃない。クラブのレベルでやっているわけじゃないんで、雑誌というのはザ・ロータリアンとか、ロータリーの友ということですが、我々はロータリーの友を読んでいるわけですが、このロータリーの友をどういうふうにクラブに読むことを徹底したり、その本をどういうふうに活用しているかということをこの雑誌の方で考えていただいて、それから会報の編集、クラブの週報なり、月報なり、そういうことについてこれは御討論願いたいと思います。

それでは長崎クラブの益田さんよろしくお願ひします。

#### パネリスト 益田耕作君

今逸見リーダーより説明がありましたとおり、雑誌というのはクラブレベルの編集はいたさないわけですね、これはR Iとかロータリーの友の本部がするわけでございますので、しかし、私としては雑誌、会報編集の取り組み方というテーマを与えられましたので、ちょっと考えてみたわけですね。どういうことだろうかということで、御手元に今日配付いたしましたパンフレットの上から第2行目に書かれておりますように、まず、雑誌とはおよそ不定期的に発行される記録誌とか、記念誌とか、周年誌とか、活動報告書、研究小冊子等を今回はいうと。実際はこれを含めて会報であるわけでございます。しかし、雑誌、会報というものの編集ということで無理にこのように今回は考えるというふうなことで、先に話を、パンフレットに沿って言ってみたいと思います。

それで一々名称を挙げますと、これは大変でございますから、総称してクラブ出版物というふうに言えるわけでございますから、クラブ出版物の編集の取り組み方というようなことじゃないかと思うわけでございます。

まず、編集出版に当たって大前提としてここに書いていますとおり、クラブ出版物はすべてロータリープログラムのある局面、またはロータリー奉仕に関する記事を載せるべきこと。これはもうほかのことを書くことじゃございませんから、わかりきったことですが、まず大前提としてあるわけでございます。

では、編集に当たっての基本的心がまえは何か。これは精神的なものでございますが、「我々は読者を退屈させずにロータリーのことを語る努力をすべきである」これはロータリアン必携に記載されているわけでございます。

では、クラブ出版物の編集に当たり、基本的な着眼点は何かということになるわけでございますが、まず、内容に親睦性があるかどうか。記録性があるかどうか。ニュース性があるかどうか。建設的であるかどうか。ロータリー教育に寄与しているかどうか。これが出版物全体に

いえることあります。

そこで、最も多く、最も身近に作れる週報を例にとって話してみたいと思いますが、御承知のとおり週報はそのクラブの顔と言われております。またクラブを評価する尺度とも言われておりますし、週報はクラブ歴史の刻印であるとさえ言われております。それで、週報をばっちらり作るというふうなことに心がければクラブ出版はすべて基本は同じというふうに解釈できると思うわけでございまして、週報の作成にあたってはさきの着眼点プラス次のことをいえるんじゃなかろうかと思うわけでございます。まず関心を促して出席をするように週報を作らにゃならない。いわゆる出席の改善をはかり、近づく例会のプログラムを発表し、予告をするわけですね。そして過ぎた前回の例会の重要事項を報告し、親睦を増進し、これはクラブ会報に会員の手記とか、消息とか、趣味、仕事、その紹介、家族のことなども載せて親睦を増進するというようなことですね。全会員のロータリー教育に寄与し、これはロータリー情報を載せることによって教育に寄与する。また、R I 及び地区の情報を伝える伝書鳩の役をするというようなことで教育に寄与し、クラブ会員、及び全世界各国のロータリープログラムに関するニュースを伝える。そして会員選考委員会と協力して隨時クラブの一覧表の中の未充填の職業分類をいくつか載せて、新会員獲得への関心を高めること。これが週報に言えることでござります。

では、編集に当たってのチェック事項ということになるわけでございますが、ロータリーのあらゆるレベルでの出来事を伝えておるのかどうか。親睦を増進し、出席を奨励し、そして、クラブ会員のロータリー知識を豊かにしているかどうか。建設的かつ希望にあふれているかどうか。読みやすいかどうか。これらがチェックポイントであるわけでございます。この4点に照らして、みんながイエスという答えじゃないといけないと、ノーがあればその改善に努力しなければならないと言われております。

では、何でもかんでもその載せていいのかというとそうでございませんで、編集に当たっての禁止事項というのがあるわけでございます。ロータリーの品位を損なう事項は、一切クラブ出版物には載せてはならないということになっております。しかし、あんまり上品すぎていきますと、お硬いということになりますので、適当なユーモアとか、ジョークなども必要であろう。

次に論争的なものは載せてならない。当惑を感じるような個人的記事、過多の冗談、ロータリアンやその家族の感情を害する恐れのある材料、宗教と政治問題の討論、政党や立候補者の援護、会員個人の宣伝色の強いもの、社会の極端な悲観論、思想的に極左極右傾向のもの、過度のお色気とか、本人の自慢げな浮気話、こういうものは載せていかんわけでございます。しかし、クラブ運営やロータリーの方向などの論議は大いにやるべしと、そこに問題意識が起こるからであるというようなことで、クラブ運営やロータリーの方向などの議論は大いに載せてよろしいということになっておるわけでございます。

次に、読みやすくするための工夫、これは体裁面でございますけれども、まず、読ませる前に目につくようにしとかなくちゃならないと、いくらいい内容が書いてあっても目につかないような体裁ではこれはなかなか読もうという具合にならないわけでございまして、人目を引くための編集は一朝にしてできないかもしれません、その辺のところをよく留意されて、十分な思慮と計画を必要とするわけでございます。この編集に当たった御経験者の方もいらっしゃると思いますが、なかなか一朝一夕にできるものじゃございませんけれども、次の点に御留意していただければと思うわけでございます。

レイアウトに工夫を払うこと。相互の関係を考えながら表題、本文、写真などの配置を決める。よいレイアウトは会報を読みやすくするし、かつ読者の目を引きつける効果をもたらすと。配色を考えること。一色ペタ刷りも経費

の関係からいろいろあろうと思いますが、2色3色くらいのことを考える。文中初めの文字は大体2、3文字大きくするとか、強調したい記事はなるべく中心に振り付けていくとか、文中でも強調したいところは大きな文字にするとか、その他点を打ったり、アンダーラインを引くとか、というふうな具合に工夫をする。一行の長さはなるべく短くする。接続詞、ずっとつないでいって一回でわからない。振り返って2、3回読まんといかんというのはやっぱり読者欲を阻害するわけでございますので、なるべく一行の長さを短くする。紙面全部をびっしり字で埋めるようなことは避ける。できるだけすっきりしたものにすること。

まず、もう一度申し上げますが、読ませる前に目につくような体裁を考えなくてはならないということになるわけでございます。

週報その編集に当たってニュース源は、その取材源はどこにあるか。当然クラブ例会から重要事項を。理事会から検討事項、計画立案事項、決定事項等を。委員会から奉仕活動事項を。プログラム委員長から次回の卓話事項の予告を。卓話屋さんの氏名、略歴を含めて載せる。どういう人かというので興味を引くわけでございます。クラブ会長からクラブ運営にかかる諸事項を。クラブ会長を通して国際ロータリーニュースを。ガバナースレター、及びロータリーの友からクラブ会報、これは特に週報ですね、月報等で触れるに値するものを載せる。名前はニュースになるわけでございますから、自分の名前が出ていると大変いいわけでございますので、全員少なくとも年一回週報に載せてみる必要もあろうかと思うわけでございます。

それで、そのためには年一回の投稿を会員の方から仰ぐということも必要であろうかと思われるわけでございます。これは親睦を深めるための一つの手段とも考えられます。

次の、最後の4ページになりますが、また、クラブの役員、委員長達に接触してクラブ会員の関心を呼びそうな問題を示唆してくれるよう頼みます。例会場にメモが置いてありますが、

それらも何か、そのためのものかも知れないとも思われるわけでございます。

その他、行事予定表を作成するわけでございますが、例えばクラブの協議会、フォーラム、IGF、地区の諸会合、国際ロータリ一年次大会、国際大会などの予告記事、またはその報告記事、またというか、及びですね、報告記事を時期を逸することなく載せること。

会報委員会、雑誌委員会はクラブ奉仕担当部門に属するわけでございますから、クラブ奉仕の理事と会合をし、意見を交換し、計画を検討すること。また、各委員長の活動についての記事を載せるため、各委員長と密接な連絡を計りあうこと。

最後に、その他経費というところまで、まず、クラブ出版物にいくら予算が計上できるのか。いろいろクラブによって出版、この特に週報の予算が違うわけでございますが、自分のところのクラブのいわゆる会費からどれだけ捻出できるか、まずそれを決めて、その範囲でどのような印刷物が作られるか、印刷業者と見積り等相談してみることが必要かと思います。

コストダウンへの一方法として年間を通じて不变なもの、これは申し上げるまでもなく御承知かと思いますが、クラブ名とか、創立承認の年月日、クラブ曜日、場所、事務所の住所、会長、幹事、理事、役員の名前、クラブ会報委員会、及びその氏名、今年のテーマ「ロータリーは希望をもたらす」ということはもう一年分、その50回くらいになりますか、それはもう印刷しておくということになるわけですね。

特に週報は各クラブにおける記念誌、例えば何周年という周年誌をつくるにあたり重要なデータを提供するわけでございますから、週報がなければそのクラブの歴史的歩みは作られないと思います。週報の編集に当たって心がけて、そのようなことを心がけておられれば他の印刷物もおのずと理解できると思います。

では、よい会報の条件として最後になりますが、3つ、次の条件があります。会報の3つの目的というのあるんですが、記録性、教育性、

親睦性に沿った記事であること。特にクラブ歴史の足跡的条件を正確に果たしていること。素材が多彩、豊富なこと。読みやすくあまり余白がないこと。よく構成され、用語、文体が統一されていること。写真、カットがあること。デザイン、編集がよいこと。年度後半にだれず、クラブ活動の結果報告がよくなされていること。

以上編集の取り組み方であり任務であります。任務があなたたちを待つておるわけでござります。

ロータリーは希望をもたらします。どうぞ来年1年度よろしくお願ひ申し上げて終わりたいと思います。

#### リーダー選見嘉彦君

益田さん、いろいろ資料までつくっていただきまして細かにクラブの会報の編集に当たっての考え方なり、テクニックを発表していただきましてありがとうございました。

ここで、あのアドバイザーのパストガバナーから3、4分お伺いしたいと思います。私は先ほどからこの名簿を見まして、一般討論に入ったときに御発言が少ないようでしたらどなたに当てようかなと思ってずっと検討しておりますので、ひとつ当たりそくだなと予感のされる方は考えといてください。

それでは、あの第1のテーマについて井田ガバナー、よろしくお願ひします。

#### アドバイザー 井田圓之君

パネリストの橋田さんが大変よくまとめてきておられた。付け加えることのないような非常にいい内容であったと思います。私は公式訪問をやっておりましてですね、このロータリーのクラブ自身の中にも高齢者問題があるんじゃないかなということを非常に強く感じさせられたわけでございます、その問題に我々ロータリアン自身がどう取り組んでいるかということが、もう一つこれを外部に広げますと、この地域社会における高齢者の問題にどのように取り組むかということにつながってくるというふうに考えております。私ども自身も遠からず高齢者という名前で呼ばれるところの、この社会の中での

部族というと語弊がありますけれども、そこに属することになるんだ。これはとても他人事じゃないわけなんですね。

そして、あのクラブをずっと回ってみておりまして、我々はやはりクラブを活性化しなければならないというふうに大声で叫び続けてきたわけですけれども、それがどういうことかと、今各クラブにはかなりの高齢の方が元気でやっているいらっしゃるのを拝見します。本当に頭の下がるような思いがするわけですけれども、各クラブが抱えておる経験豊かな高齢の方を祭り上げてしまったり、雲の上の人というようなことでやってはしないかなと、また、その高齢の方々も次第にそういうことに馴れてきて、あとはみんな若い者が適当にやれと、おれはもうそこで御簾の奥に鎮座ましませばよろしいのであるというようなことに無意識のうちに、いつのまにかなってきてはいないか。

そういうことではなくて、本当にその経験をどう引き出すかというよりは、むしろ高齢の方自身もそれをどう後に続く若い方々に分かち与えるかというふうに考える。お互いがそのように心がけるというようなことがロータリーの中では必要じゃないかというふうに考えるんです。そうしてそういうことをやっていくためには、その尊いノーザウ、もうまたと得られない貴重な経験を本当に全部奪い取るというと語弊がありますけれども、ちょうどいするためにですね、うんと若い人たちをクラブの中に入れて機会を与えてあげる。そういうことを真剣に考へるということから高齢者に対するものの考え方方が始まるんじゃないかなと。何かこう壊れものを扱うような格好で、床の間に置いとけばいいというようなのが一見何か大事にしておるよう見えるかもしれないけども、それでは心が満たされないと、何を欲しておられるかというようなことを本当に考えると、そして、その心になってやると、そういうことをやった結果が活性化、一つのパロメーターが平均年齢が下がってきたと。これは結果論なんですね。平均年齢を下げるということだけを考えますとね、私も

経験しましたけれども、それじゃ俺たちはもう退会しよう。そうすると平均年齢が下がるじゃないかという非常に短絡したものの考え方、しかし、そんな考え方在我々はもうならないよと言っているけれども、そのところへさしかかって、さっき申し上げたように雲の上に置かれておるとね、ついついそんなふうに考えたくなるんですね、人間は。だからそういうことを、まずロータリークラブの中からなくしていく。本当にそれぞの持っているものが生きる、お互いに協力しあってクラブが活性化される。そういうクラブを実現する。そのことがとりもなおさず、そのクラブのロータリアンの皆さんのが地域社会の高齢者に対してどう働いていくかということと、そのまま直結するというふうに私は考えます。

#### リーダー 逸見嘉彦君

どうもありがとうございました。

それでは、あの2の方のテーマで岩永パストガバナーにお願いします。

#### アドバイザー 岩永光治君

雑誌、会報編集の取り組み方ということで先ほど長崎クラブの益田耕作パネリストよりこういうすばらしくこの詳しく印刷物をもってきていただきましたので、もういまさら私がこれに付け加えるようなことはほとんどないんでございますが、益田君は御承知のとおり地区の雑誌、会報担当の地区委員長を今度していただくわけでございますが、ロータリーの友の地区的委員をされております。したがいまして、このロータリーのこの私どもが愛読しますロータリーの友の編集に当たってもずいぶん努力をしていたいおるわけでございます。

この雑誌でございますけれども、私はこの4月が雑誌週間で皆様方御承知のとおりでございますが、今日はこの機会にロータリーの友の英語版があることを御存じだと思いますが、年に2回出しておりますが、これをこういう機会にぜひ購入をお勧めしてくれという依頼が友の方からまいってきておりまして、1部が500円だそうでございますが、押し売りのようでございますけ

れども、これをクラブに会員の1割はぜひ購入していただきたいということだそうです。そして、例えば外国旅行されるロータリアンがおられる場合に持参していただくとか、あるいはそのほかのクラブ来訪の外国の方、あるいはまた、交換学生だと、ロータリー財団の学生とか、いろんなそういうものに利用していただきたいということでございます。

また、世界大会なんか参加される場合にもこういうものを持っていっていただきたいというふうなことで、世界大会が目の前に迫っておりますので、これをぜひ買っていただきたいということだそうです。どうぞそういうふうなことでございますので....

雑誌は何といいましょうか、皆さんが読んでいただかなければ何もならないわけでございますが、なかなかあの忙しくて見てないという方もかなりいらっしゃるようでございますけれども、少なくとも例会のときに配付されるので、例会のさきにめくってそのままになってしまっているというのが大部分のようございますけれども、どうぞひとついいことが載っておりますので、ぜひ見ていただきたいと思います。

雑誌はロータリーのこの世界の窓ということになつておるようでございます。いろんなものが載っております。そういうことでございますので、申し上げるまでもなく、特にあの若い方々に、入会間もない方々にはこれを1年間本当によく読んだらベテランになること間違いないんでございます。本当にあのそういう具合に知識を得るためににはこのロータリーの友が一番早道のような感じがいたします。どこから見てもいいような気がいたしまして、左から見ようが、右の方は縦書きでございますし、左から見ると横書きでございますので、いろいろのどこを開けてもいいニュースが入っておるようでございます。

そういうようなことで、あとは会報のことにつきましても、これはもう会報はクラブの新聞でございますので、新聞は興味があるものをやはり見たいわけでございますので、最新のニュ

ースもまた知りたいので、どうぞその編集についてはここに詳しく言われたとおりでございまして、この会報の目的というものはもうおわかりのとおりでございまして、クラブの活動とか、あるいはまたRIのプログラムに興味を持っていただくと同時に例会の出席を強化する一つの重要な道具になるんだと、こう言われておりますので、週報編集に当たってはひとつ委員長さん大変でございますけれども、これを1年間本当に取り組んでいただきますと、これまたクラブの内情についてはロータリーについては本当にベテランになるようでございますね。やはりそういうふうなことで、ロータリーを知るうえにも自分自身でも非常にこれは大きな知識になるようでございます。

ここで、あの先ほども益田さんから言われましたが、週報のこといろいろおっしゃいました中で、私からもお願いでございますが、私のクラブの会員に会員の動向を載せてくださいということをお願いして回ったことがございまして、会員増強なんかの場合ですね、どのくらい自分のクラブにメンバーが今月あるのが。そういうものを必ず載せていただきたい。それが期末にプラス1名なのかマイナス1名になっているか、そういうふうなのも欄を設けてひとつ会員の皆さんに見えるようにしていただきたいということを申し上げて、大抵のクラブはそれを載せていただいておると思いますが、今回私はまた、先ほど言われましたように未充填の職業分類表もこれも小出しに時々載せていただくと、会員はこれが空いているんだなあということで、会員増強にもつながるわけでございますので、そういう未充填も時々載せていただくと。よく会報では何と言いましょうか、それぞれのだれかに書いてもらうことが多いりますけれども、それも必要でしょうけれども、そういうクラブの内情を発表することも非常に大事なことだらうと思いますので、よろしくやっていただきたい。

それから、取材の材源も先ほどおっしゃいましたが、特にクラブの会長さんに送ってまいり

ますところのRIのニュースがございます。年に何回か送ってまいりますが、そのRIのニュースを必ず会長さんどまりじゃなくて、1部しかきませんので、この編集者の方に渡していただくな。編集の皆さん方はぜひそれが来ていることを知っておいていただきたいと思います。RIの情報抄録というのも送ってきておるわけです。事務総長のあれも送つてまいります。すべてそんなのが日本語で今日本支局から送ってきますので、これを必ず会長さんが渡していただきたい。目を通されて、幹事さんが目を通されて、そして編集者の方に渡していただいて、これこれを載せろという具合に印を付けるぐらいにして渡されると非常にためになります。

それから、もちろんここに書いてあるとおりで、ガバナースレターなんかも非常に参考になる。申し上げるときりがございませんけれども、一応気づきましたことを私益田さんのあれに付け加えさせていただきます。どうも失礼しました。

#### リーダー 逸見嘉彦君

ありがとうございました。パストガバナーが大変はりきって8分25秒やってくださいましたので、パネラーの方1、2分御追加がありました....

#### パネリスト 橋田村俊君

あるどころではございません。1、2分で、リーダー逸見嘉彦君

ちょっと一般討論もしたいもんですから..

#### パネリスト 橋田村俊君

高齢者の気持ちを代弁させていただきますならば、この高齢化社会はなぜ困のかと、怒りの気持ちではないでしょうか。不老長寿は人類の見果てぬ夢であります。長生きすることは喜ばしいことであったはずです。しかるに、昨今どこへいっても老人福祉費、あるいは老人医療費、あるいは老人年金など、金の問題に絡めて高齢化社会は困ったもんだという話ばかりであります。なぜ困るのか。現在高齢者といわれる方々は戦争を生き抜き、戦死によって若者が極度に減少した敗戦後の廃墟の中から復興を目指

して必死に働いてきた方々です。現役を退いたり、病気になったりしていても高齢者として、あるいは準高齢者として特別視される、排除される、いわれはどこにもありません。

しかし、現実には老いは不当に差別されています。家庭でも社会でも役割を奪われ、あるいは疎外されている向きもあるかもしれません。そのような現代社会の在り様がボケを大量生産しているともいえます。高齢者を特別視することの不思議、これをなくさなければならぬと思います。そうして、喜ばしい高齢社会にソフトフランディングするためには、現代社会の老人観を根こそぎ問い合わせなければならないと思うのであります。

**リーダー 逸見嘉彦君**

益田さんどうぞ。

**パネリスト 益田耕作君**

ガバナーのロータリーの友のことについてちょっとお願ひ方々内幕をお知らせしようかと思っております。

ロータリーの友は1953年1月にできたわけですね、昭和28年、これは日本が1地区であったときに2つに分かれたときなんですが、その今まで一緒のものが2つに分かれてさみしいなということからかなんか、そのパイプ役をつくろうじゃないかというようなことでこのロータリーの友が生まれたんですが、初めはこれはビールの友という名称だったわけです。で、ビールの友という名称で作られたんですが、いざこれを正式に認可するときにいい名前はないかなということで、ビールを飲み飲み考えたのか知りませんけれども、そのビールの友というぐらにしたんかというたら、いや、そんな難しゅう考えんでもいいじゃないか。ロータリーの友でいこうじゃかないかということでロータリーの友になったわけでございます。

で、ロータリーの友の編集に当たりましては、その専従の編集員が東京本部におられるわけでございますが、その皆さんがロータリアンでないということからか、またロータリーの機関紙としての役目を向上を図ろうということで広く

皆さんの意見を聞こうということからか、地区に1名ずつロータリーの地区的委員というのがおるわけです。当地区は私がそれを受け持たせられているわけでございますが、その委員は毎月送ってくるロータリーの友を体裁から内容に至るまで目を通し、批判とか要望とか意見をまとめて、毎月15日までに東京本部に提出しなければならないということになっておるわけでございます。この5月号も既にここに来る前に提出してきたわけでございますが、その意見書に基づいて2月に1度東京に我々がみんな集まりまして、いわゆる松平一郎さん以下ロータリーの委員長、諮問委員会、編集委員会、そして今いう27名の地区的委員が、総勢44～5名になりますが、提出された意見書をもとに今後いかに反映するかということで検討会議をするわけでございます。当然RIの方から掲載の指定記事も送ってまいりますし、皆様方からの投稿記事もございますし、依頼原稿もあるわけでございますが、そのようなことも審議しながら編集をし、アレンジをし、振り付けをし、そして印刷をして皆様方の御手元に毎月お届けいたしております。

そのようにして、微力ながらでも全員が努力しながら毎月毎月のことございまして、私のこの1年受け持ったわけでございますが、貧乏くじを引きまして、また来年も1年間この仕事をしなくちゃならないわけでございまして、微力ながらでもロータリーの友のなお一層の向上を図るべく努力いたしておりますので、そのところをお汲みいただきまして、今後なお一層の御愛読のほどをこの壇上からでございますが、お願ひ申し上げる次第でございます。終わります。

**リーダー 逸見嘉彦君**

どうもありがとうございました。

ここで、あのフロアの皆様から自由に御質問なり、また自分はこういうふうに思うという御提案なりありましたら承りたいと思いますが、あの高齢者についてこういう言葉があるんですね。「子供叱るな、我が来た道。年寄笑うな、我

が行く道。」ですね。若い人もこれから自分が年を段々重ねて行く道なのでございまして、特にあのロータリアンは定年がないんですね、お元気ならばいつまでもロータリーに来ていただく。また、社会的にお仕事を子供に譲られたりなんかすると本当にあのロータリーがますます楽しみになられるお年寄りの会員が多いと思うんです。私はやはり高齢のロータリーの会員には今までのロータリーの知識といいますか、熟練、そういうものを大いに我々が活用させていただくと、何か企画するときもそういう方の熟練知識を何か活用させていただくように気配りをすべきじゃないかと、お年寄りの会員の方は会費の免除とかということは、あんまりそういうことは意に介しておらないし、望んでもいないように思います。

ただ、段々お年寄りの会員になりますと、大変どこのクラブにお伺いしても、この難聴といいますか、補聴器を付けられておる方なんかが多いんですね、会員の方で。そういう方があるやはり御自分が耳が不自由だとどうしてもしゃべる声が高くなるんですね。で、卓話なんかのときに何か用事があって隣の方としゃべっているのも非常に高い声でしゃべったりなさる。

それからまた、そういう、どうしても年をとるとお話しをするときには少しばかり話が長くなるんですね。

それから動作とか、立ったり歩いたりするときも非常に動作が遅いとか、スムーズにいかないとか、いろいろそういうのが年をとると出てくるわけですが、しかし、それは周りの若い会員が本当にうまく心遣いをして、そういうことを助けてあげなくちゃいけないんじゃないかなと私は思いますが、皆様の中でうちのクラブは高齢会員にこういうユニークなことをしているんだというようなことがありましたら、また、地域社会の社会奉仕の部門でユニークな高齢者に対する奉仕をしているということがありましたら、ひとつ御発表願いたいと思いますが、どなたかおられませんでしょうか。

おられないようでしたら、ちょっとこの名簿

から選ばしていただきますが、社会奉仕委員長に今度なられる方がたくさん来ておりますが、私佐世保なもんですから、ちょっと御遠慮申し上げて、ひとつ佐世保の方から、佐世保東クラブの岡さんおられますか。どうぞ

### 佐世保東クラブ 岡 一君

佐世保東クラブの岡でございます。

近年高齢者問題については社会問題として大きく取り上げられております。最近情報によりますと、以前は10人に1人くらいで福祉問題を持っておったものが、近年は6人に1人とか、近い将来は2人に1人くらいで福祉問題について、年寄り1人を面倒みにやいかんというような、非常に身近なところに問題が迫ってきております。これは1つは経済的な問題でございますけれども、精神的な問題としまして先ほどおっしゃっていらっしゃいましたお年寄りを敬うという問題がございます。経済的な問題で、老人社会福祉の問題でこれだけ満足すれば果たして高齢者の方が満足するのかというと、なかなかそうはまいらず、精神的な問題がある。日頃から目上の方を敬うということは一つは精神的な問題について高齢者の方への心遣いとなり、一つの若い人たちとの絆となって何かと支えになろうかと思います。

私どもも高齢者問題について何をやつたらいいかということについて全くわからないわけでございます。

先ほど橋田先生から立派なお話を伺いしまして、まず私たちのロータリークラブの中において日頃から、まず目上の方を敬うという問題をとりあえず自分のクラブ内から心掛けていき、あるいはクラブ会員を通じて地域社会にこれを広げていきたいというふうに考えております。

### リーダー 逸見嘉彦君

ありがとうございました。敬老の精神を一番根本的にあれしてやっていこうというようなことですね。

それでは、あの長崎クラブは大変歴史の一番当地区でも長いクラブですので、たぶん御高齢の方が多いんじゃないかなと思うんですが、田川

さん、ひとつ何かそういう長崎クラブでやっている具体的な例をお話、もしもあったらしてください。

#### 長崎クラブ 田川博康君

長崎クラブの田川でございます。真正面に座っておりましたので、非常に緊張して逸見リーダーと目線がなるべく合わないように下を向いておったんですが....

50周年を迎えますクラブですので、何か皆さんに御参考になればとおもって御報告方々皆さんのお知恵をお借りしたいと思います。

私どもはまず、あのクラブ内のキャリアメンバーに対することなんですが、必ずしもうまくはいっておりません。ただ、あの私どもの中でタブーになっておりますのは、老人という言葉を使わないということがいつの間にか伝統になっておりまして、9月にあります敬老の日前後の私どもの中の事業にしましても敬友会という言葉をつかわしていただいております。友という言葉を老のかわりにつかわしていただいております。

で、さらにあの会長経験者、あるいは20年以上のキャリアメンバーがたくさんいらっしゃいますので、私どもとすればいかにこういう先輩の方々のロータリー経験を今のロータリー活動に生かすかということをクラブ管理として会長、及び幹事にお考えいただくということが一番大事なことだとは思っておりますけれども、先ほど井田ガバナーと逸見パストガバナーがちょっとお触れいただいたんですが、非常にそちらのニューアンスが難しい。私ども若い人間がアクティビティにお願いをしなければ、また力は貸していただけませんし、またキャリアメンバーの方も仲間として参加していただくようなお気持ちが、非常に失礼ですけれども、必要なんじゃないかという気がするんです。どちらかといえば、我々が困ったころはねという話を数回となくされると、段々若いメンバーが離れていくと、そうではなくて、一緒にどうやっていこうかというふうに態度をつくっていただければ若い連中も段々溶け込もうとしていくんではないかと、

両方少しすくんだるような格好がございまして、ちょっと元老院が多すぎるなというふうな感じがするわけでございます。結果としてクラブ運営が半分くらいの、あるいは3分の2くらいのメンバーが一生懸命に走り回ると、キャリアメンバーについてはできるだけそっと参加をしていただくというふうな格好になりかねないわけでございます。ただ、50周年を契機にしてそういうことについてかなり積極的に取り組もうということでございます。

例えば先輩メンバーがマイキャップのことなどをおっしゃり始められるとですね、私ども一言もないわけでございます。具体的に申し上げますと、長崎には長崎クラブしかない時代に、俺たちは諫早まで行っておったとか、あるいはその汽車に乗ってよその町にまでマイキャップしておったぞと。今や市内に月曜日から金曜日まで毎日例会があるではないかなどということをおっしゃっていただくと、ついつい若いメンバーが黙りこんでしまうというふうなことが実態でございます。どうぞ他のクラブで何かございましたらお教えいただきたいと思います。以上でございます。

#### リーダー 逸見嘉彦君

ごく一言で井田ガバナー何か御感想あったら....

#### アドバイザー 井田圓之君

そうでございますね、一言でと言われると大変難しいんですけども、今いみじくもおっしゃっておった、このお互いに、やはりそこがロータリーの一番いいところ、お互いに相手の気持ちになるということを先に考える。そして問い合わせ、お願いをするというようなことを非常に簡単なようですけれども、これなかなか難しいんですよ。ただ、それがロータリーの本当の基本的な、理屈抜きの考え方だと思いますので、そういうふうにしていくということ。

それから、もういやでも、やはり我々もそうなっていく、そういうふうに感じた場合には自分が先ほど、あの逸見リーダーおっしゃったように「我の行く道こうはあるまいぞ」というふ

うに思う。そして、率直にやはり言うことですね。率直に言うて、率直に意見を引き出すと。何かこう腫物に触れるように思っておるから段々おかしくなるというふうに私は考えます。世の中でもそうだと思うんです。そして、やはり心の若さというものを保っていただけるように、肉体的なものとか、そういうものは自然の摂理で段々衰えてまいりますけれども、そういう場合にはそれに対する対応というものを気配りをして差し上げるということで、やっぱり日頃のものの考え方ということではないでしょうか。その一語に尽きると思いますよ。それが通じますとですね、いろんな面で活潑にですね、意見を言うていただけるということになると思います。

**リーダー 逸見嘉彦君**

ありがとうございました。

それではあの2の方の会報、クラブ会報、こんなところを非常にユニークになつてあるんだとか、こうなさつたらいいんじゃないですかとかといふいい御提案がありましたら、どなたか御発言ありませんでしょうか。

ないようですので、それでは佐世保南クラブ雪竹さん、来ておられますか。今マイクを持っていますから簡潔にひとつ話してください。

**佐世保南クラブ 雪竹弘男君**

あの南クラブでは会報、私この次やらしてもらうんですけれども、やはりあのこう見てみると、どうしても前回の報告、経過報告というような形になっておるんじゃないかなというような感じ、これはあの次期会長も含めてそのように感じております。そういう中で今日この資料いただきましたけれども、やはり次の予告、あるいは会員のニュース、こういうようなものについてもどしどし取り込めということですので、そのように編集したいと..

また、色、それから読みやすく、また見てわかるようにというようなことも含めて検討しております。

それと南クラブの場合非常にニコニコボックスが多いということでございまして、このニコ

ニコボックスというのは会員の動向なり、いろんな問題について会員のニュース、あるいは名前が載るというふうなことも含めて、これはもうカットをしないで全部載せておるということでございますので、ここらへんのことについては今後も続けていきたいということです。以上です。

**リーダー 逸見嘉彦君**

ありがとうございました。

それでは、あの長崎東クラブの会員増強委員になっておりますけれども、長くこっちの方の畠を歩いておられた永石さんおられますか。ちょっと御意見を....

**長崎東クラブ 永石克巳君**

実はくるなと思っておりました。北島、逸見両パストガバナーの時代に私は雑誌、会報、広報の地区委員をやらしていただきました。そのときに、2回目の逸見ガバナーのときに大村で私が厚かましくも各クラブの委員さん方の前でしゃべったんでございますけれども、そのときはどうしたわけか、逸見ガバナーは御欠席でございました。せっかくの私の話を聞いていただけなかったのは残念でございましたけれども....

冗談はさておきまして、益田さんのおつくりになっておるのは非常に、このとおりだと思います。私は4、5年前にうちのクラブの週報の編集をやったわけでございますけれども、そのときに一番手抜きをして作る方法はどういうことだらうということを考えました。私の方は2つ折りの4ページでございますけれども、まず、1ページを表紙、その他クラブのいろんな創立とか、そういうものに費やしまして、2ページ目を例会の記録と申しますか、そういうもので埋めると。そして3ページ目を一応クラブの会員の方に関する企画物で、4ページ目をローティー情報で埋めようということで発行してまいりました。

ところが、そのときの公式訪問の北島ガバナーでございましたけれども、卓話の内容を載せなさいという御指示がございました。これにつ

いては私は卓話の内容は、私は今でもそう載せなくともいいんじゃないかというふうに思っております。そのときのガバナーのサディッシュさんは欠席した人に知らせるために載せなさいということございましたけれども、私はその欠席した人が悪いので、欠席するためにこんなない話が聞けなかったんですよというお知らせにはなるかもしれませんけれども、欠席をされた方はもうその話しが聞かれなくても仕方がないというふうに一応考えたわけでございます。

なぜ、そういうことを申しますかと言いますと、いろんなつくるうえにおいて考えます。さつきちょっと手抜きと申しましたけれども、例えばロータリー情報なんというのは、さっき岩永パストガバナーが言われましたものからも拾えますけれども、例えばロータリーの75周年に出ました75周年誌というのを読みますと、我々が知らないような情報が盛りたくさんあすこの中に入っています。それから引っ張り出しても毎週毎週1ページ埋めるような材料がたくさんあるわけでございます。むしろ卓話を欠席した人のために載せるよりもそういうものを載せた方がベターだと私はこういうふうに考えたわけでございます。

それから、あのさっき益田さんお書きになつたこのパンフレットの中で、ただ一つ私この※E項でございますけれども、記事に見出しを付けられたらなお読みやすくなるんじゃないかと、こういうふうに思います。

それから、もう一つは軟らかくするために1ページにカラー写真を私はふんだんに使いました。その中で、実は私の方のクラブの中にプロの写真屋さんがいまして、この人がきれいなヌードをヨーロッパに行って撮ってきたわけです。それをつかいました。品を落とすかどうかということを考えましたけれども、プロの写真がきれいなヌードでございましたので、それを1カ月ほどつかいました。表紙に。そしたらうちのクラブの人が長崎市内のあるクラブにメイキャップに行かれて、うちの週報を出されて、東クラブはこんなけしからんとおっしゃるのかと思

ったら軟らかい週報を出して読みやすいように努力をしているというふうなおほめの言葉をいただいたということを私に言ってくれました。私は、私の真意がわかつていただけたなと思って、いささかうれしゅうございました。失礼します。

#### リーダー 逸見嘉彦君

ありがとうございました。最後にそういう落ちまでつけていただきまして…。

時間がやがてきましたようございます。どうも、あのパネラーの方、それからガバナー、パストガバナー、ありがとうございました。どうも皆様お疲れございました。ありがとうございました。(拍手)

(※E項 読みやすくする為の工夫)

## あいさつ

第 八 回 ニューヨーク地区

ガバナー 井 圓 之

もう、私がごあいさつを申し上げることは一つもないような気がいたします。どちらかと言いますと、野田ノミニーの独壇場であってほしいというのが私の率直な心でございます。

昨年来、本当に皆様方のあふれる友情、そしてこの福江ホストクラブの皆様方の周到な御準備、その結果が混然一体になりまして、非常にすばらしい協議会ができたのではないか。私は心から感謝を申し上げております。

そして、また昨晩の懇親、すばらしうございましたね。そして、この福江の海の幸、十分に皆様方堪能されたんじゃないでしょうか。

そして、今日の快晴、昨日に引き続き、なんとまあこの協議会は恵まれた協議会であったろうか。率直に申し上げましてこういう感想に尽きるわけでございます。

11月にはここでまた地区大会があります。いろいろと今から心を碎いていかれると思います。昨日私どもは野田ノミニー並びに地区の役員の皆様にこの協議会が終わりましたら、早速反省会を開いていただきたい。そうして来たるべき大会へ向けて万全の御準備をなさっていただきたいとお願いを申し上げておきました。恐らくそのように実行されて、すばらしい大会になると思っております。どうか皆様こぞって、と申しましても人数に限りがあるのではないかと思いますけれども、精鋭を選びすぐって、奥様共々工夫を凝らして、この福江の地にお集まりになるようにお願いを申し上げまして、昨日来大変ありがとうございました。お気をつけてお帰りになりまして、次年度へ向けて着々と御準備怠りなくお願いを申し上げます。大変ありがとうございました。



## 閉会の言葉

ガバナーノミニー 野田久雄

2日間の協議会いかがでございましたでしょうか。皆さんさぞかしお疲れになられたことと思います。御協力を心から感謝申し上げております。

今日の激動する社会では刻一刻とニーズが変化しつつございます。私は決して古いものを一概に否定するものではありませんけれども、今年は去年のコピーであってはならないと思っております。私たちはロータリーが人類に希望をもたらす踏石となるために、その使命を自覚いたしまして、よりよいものを目指して尽力していこうではありませんか。

どうか私の足らざるところは皆さんの善意と英知によりまして補っていただきたいと存じます。そして、来たるべき年度を私たちの生涯の思い出の中で心に残る1年としようではありませんか。

2日間御協力いただきましたガバナー、パストガバナー、パネリストの方々、心から厚くお礼を申し上げます。

最後に皆様方のつつがなく御帰宅いただきますようにお祈りをいたしまして、簡単でございますが閉会のごあいさつにかえさしていただきます。ありがとうございました。

---

国際ロータリー第274地区

ガバナーア事務所

〒853 長崎県福江市栄町3-6 親和銀行福江支店2階  
TEL (09597) 2-2257 (直通)

---